明治三十五年三月二十五日發行（明治二十一年十一月本會創立）
第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日） 毎月一回十五日發行 内務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百四拾八號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百四十八號 目次

講演

◉無病長命論　醫學博士 三浦謹之助君 (一)

抄錄

◉眼の衛生　醫學博士 桐淵鏡次君 (五)

寄書

◉痲疹小話　醫學士 竹中成憲君 (一三)

會員寄書

◉氷罨法と貞婦　新潟一會員 わ、く、女 (一四)

衛生叢談

◉不時の災難に遭遇したる時の注意　在大學院 Dr T. S. (一七)

●火傷したる時の心得●ランプの怪我●處方●結核の遺傳●唾液の話

看護法 (二四)

◉發汗療法●砂浴●熱氣浴●冷水療法●冷水纒絡法●モール浴●蒸氣浴●冷水摩擦

應急手當

◉東京府師範學校附屬小學校の應急方法 (三四)

中外彙報

●アドルナリン止血劑に就て●癩病の奇藥●マラリヤ豫防試驗成績●肺病と空氣療法●結核豫防會議●比律賓の癩病患者●血清藥院及研究所の擴張●禿頭病●痲疹病●深川の湧泉●長崎のペスト●東京市の施療院●露國の幼兒死亡率●市內の傳染病●台灣ペスト●神奈川縣の鵞口瘡●流行性感冒●九州大學と福岡病院

質疑欄

●質疑十數件

大日本婦人衛生會記事

●本會三月總會景況

●收支決算事務報告

●宇都宮支會及山形支會●茨城支會●高崎茶話會景況

●本會盡力の諸氏

●本支會の會員轉居●會員種類變更●正誤●吊詞●新刊批評●交換寄贈雜誌等

此裏に緊急會報あり

本會春季懇親會報告

追々春和の候に相成候間來**四月五日**（第一土曜日）午後一時より小石川區白山御殿町帝國大學附屬植物園内に於て晴雨に拘はらず本會の**春季懇親會**相催し專ら運動と懇親を旨とし左の如く擧行致し候當日は**總裁小松若宮妃殿下**の御臨場を奉仰候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度此段御案内申上候也

追而◎出席有無　右**御出席御欠席**ともに**來四月三日**迄に本會事務所（牛込區矢來町三番地）宛御報相成度候◎會費　御出席の節は御一人に付會費**金貳拾錢**當日御差出有之度候◎會員外の御出席　差支無之候間當日多人數御同伴被下度候又會員の名刺御持參にても差支なし　但會費は會員に同じく出席の御申出又前に同じ◎衣服とはきもの　衣服は勤めて御質素に相願候天氣の節園中は草履若しくは駒下駄御用ゐ下されたく候

擧行順序

一開會午後一時より　近衛師團軍樂隊半隊演奏
一植物園内内及溫室觀覽　仝上
一園内散歩隨意遊戯等　仝上
一四時散會

明治三十五年三月

私立大日本婦人衞生會

●會費增額報告

本會々費增額の事は屢々役員會の議に上り居候處今日迄出來得へき限り經費を節減し來り候得共近來會員の增加と共に諸般の費用も從而增加し往々不足を告ぐる場合少からず候就ては先般役員會の議決に基き去三月一日本會總會に提出して衆議に諮り候處滿場無異議左の如く增額の事に相決し候間右御了承有之度此段及報告候也

規則第五條中修正

一終身會費	一時出金	金貳拾五圓
一特別會員	一ヶ月	三拾錢以上
一通常會員	一ヶ月	金拾五錢

右四月一日以降實施

追而會費及徽章料は總て前納にて本會事務所（牛込矢來町三番地）會計係宛御送附有之度候也

明治三十五年三月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならすや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜はしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人膂ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講義演說談話を聽き互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治卅二年十二月改正）

●第一章　目的第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二章　名稱位置第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三章　會員第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上　通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り會費を無とすることあるべし第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第四章　役員第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を推戴し皇族の妃殿下に願出るものとす第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設ける第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす第十三條　會長の見込を以て役員外特に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生するときは次點者を以て補缺す第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第五章　集會第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會須要の事項を評議するものとす第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるを得（但衣服は總て質素たるべきこと）第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとし議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第六章　會計第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但些少の金額に限り日用支出の爲め事務所に引出置くことを得第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事の檢印を要するものとす第廿四條　會計は一ヶ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし●第七章　支會第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱して其規則は本會の規則と抵觸せざる樣記案すべし第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に回送すへきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第八章　雜件第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し每會に於ける衛生上の講義演說談話等の筆記及內外彙報本會の諸報告等を揭げ之を會員に配付すべし會の報告あるとき又同じ第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚

本會雜誌を以て報告すべし

第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）

第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし

第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の贊成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　小松宮依仁親王妃 周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

幹事（いろは順）　鳩山春子
- 全　羽田三緒子
- 全　穗積歌子
- 全　岡田德子
- 全　高木かう子
- 全　松平芳子
- 全　三浦教子

評議員　石川さだ子
- 全　濱田捨子
- 全　仁禮壽賀子
- 全　西升子
- 全　男爵夫人　西靜子
- 全　德富靜子
- 全　緒方悅子
- 全　男爵夫人　川口直子
- 全　男爵夫人　加藤鈴子
- 全　吉武輝枝子
- 全　子爵夫人　田中伊代子
- 全　高橋孝子
- 全　丹波良子
- 全　男爵夫人　南部限子
- 全　中濱芳子
- 全　岡山とし子
- 全　山本多穗子
- 全　子爵夫人　松前藤子
- 全　子爵夫人　松井正子
- 全　馬渡玉子
- 全　伯爵夫人　松平光子
- 全　子爵夫人　秋元宗子
- 全　三宅藤子
- 全　宮本樂子
- 全　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城

本會特別贊成員
（非に本會に於て講演せられし諸氏）

- 醫學博士　入澤達吉君
- 理學博士　飯島魁君
- ドクトル　伊澤信平君
- 地方視學官　色川圀士君
- 醫學士　伊東祐彥君
- ドクトル　飯盛挺造君
- 醫學博士　伊藤隼三君
- 理學博士　石川千代松君
- [illegible]　岩井禎造君
- 新潟　池原康造君
- 同　池田潔君
- 前文部大臣　濱尾新君
- 醫學博士　濱田玄達君
- 法學博士　鳩山和夫君
- 東京　萩原彌四郎君
- 醫學博士　芳賀榮二郎君
- 衛生局長　長谷川泰君
- 新潟　長谷川一詮君
- 小兒科　小原頼之君
- 醫學士　林春雄君
- 醫學博士　緒方正規君
- 步兵少佐　堀內文次郎君
- 醫學博士　土肥慶三君
- 醫學博士　岡田和一郎君
- 醫學博士　大澤謙二君
- 醫學士　大西秀治君
- 醫學博士　大澤岳太郎君
- 一等藥劑官　恩田重信君
- 醫學士　若杉喜三郎君
- 男爵　加藤弘之君
- ドクトル　加藤照麿君
- 醫學士　賀古鶴所君
- 醫學博士　河本重次郎君
- 醫學博士　樫村清德君
- 醫學博士　片山國嘉君
- 醫學士　川上雅量君
- ドクトル　金杉英五郎君
- 醫學士　笠原光興君
- 醫學博士　高橋順太郎君
- ドクトル　高山紀齋君
- 醫學博士　高木兼寬君
- 法學博士　高木豐三君
- 醫學士　田代義德君
- 新潟　田代亮助君
- 男爵　高崎正風君
- 醫學士　田中成憲君
- 醫學士　竹田耕安君
- [illegible]　高橋長方部君
- 藥學博士　丹波敬三君
- 醫學士　高橋貞頎君
- 藥學博士　田原良純君
- 醫學博士　坪井次郎君
- 三等軍醫正　星野在光君
- 一等軍醫　橫井忠國君
- 大日本教育會長　辻新次君
- 理學博士　坪井正五郎君
- 中央衛生會長　長與專齋君
- ドクトル　長與稱吉君
- 男爵　南部甕男君
- 藥學博士　長井長義君
- 新潟　長井千尋君
- 醫學博士　中濱東一郎君
- [illegible]　中村勇三郎君
- 醫學士　村松秋雄君
- 醫學博士　隈川宗雄君
- 醫學博士　栗本東明君
- 醫學士　山田識三君
- 大審院判事　馬屋原彰君
- [illegible]　山根正次君
- 岡山　山川春良君
- 醫學士　丸茂文良君
- [illegible]　丸山長四郎君
- 松山病院　松山棟庵君
- ドクトル　小柴信六郎君
- 盲啞學校長　小西信八君
- 廣島　小泉貫君
- 醫學士　古川榮君
- 東京　布施正顯君
- 臺灣民政局長　後藤新平君
- 帝國大學教授　ベルツ君
- 醫學士　甲野棐君
- 文部書記官　寺田勇吉君
- 子爵　秋元興朝君
- 前軍醫總監　足立寬君
- ドクトル　新井古芳君
- 新潟　阿部玄四郎君
- 高等醫會長　土谷全次君
- 産科婦人科　水原漸君
- 醫學博士　佐々木政吉君
- 醫學士　淺田央君
- ドクトル　朝倉文三君
- ドクトル　朝山義六君
- 醫學博士　佐藤三吉君
- 醫學士　櫻井郁二郎君
- 醫學士　佐藤恒久君
- ドクトル　佐伯理一郎君
- ドクトル　榊順次郎君
- 醫學士　榊保三郎君
- 醫學士　櫻井恒次郎君
- 醫學士　北村精造君
- ドクトル　北川乙二郎君
- 醫學士　木下正中君
- 醫學士　北島小太郎君
- 醫學博士　北里柴三郎君
- 醫學博士　三浦守治君
- 醫學博士　三浦謹之助君
- 小兒科專門　宮本仲君
- 理學博士　箕作佳吉君
- 醫學士　三島通良君
- 醫學博士　三宅秀君
- 醫學士　三輪信太郎君
- 新潟　水野欽君
- 伯爵　土方久元君
- 醫學士　島村俊一君
- 醫學博士　弘田長君
- ドクトル　須田卓爾君
- ミス、ヒユース
- 醫學士　笹川三男三君
- 醫學士　波多野惇君
- 醫學博士　吳秀三君
- 八王子　和田義貫君



私立大日本婦人衛生會副會長　濱尾作子

（明治三十五年三月二十日發行）

講演

無病長命論

醫學博士　三浦謹之助君述

私が久しく御無沙汰致しましたるは平日公務の爲め土曜日の午後には出席致し兼まする故て御坐りまするが本日は幸に閑暇を得まして殊に此一月の御芽出度發會に出席するの榮を得ました然るに本日は後に福引の餘興が御坐りまするから可成長引かない御話をせなければなりません

扨此地球は其始め太陽の樣に火の玉て御坐りまして生物とては一つもなかつたので御坐りますが只今此地球上に棲息する動植物は如何して出來たかと申しますと昔は魚蟲等が自然に泥土より生する樣に思ふて居りましたが學問が進むに從ひ生物は皆な生物の子孫て生物は皆生物より生ずると云ふことが分りましてから黴菌の樣な極々微細なものでも自然に出來ると云ふことはないそうすると地球の上に生物が現はれた始めは流星の上に附着して他の星の世界より飛て來たのではないかと考へた人もござりましたが今日の所では地球が火の玉から段々冷却する時に水素と酸素が化合して水が出來た如く元素の離合が自由であつた時代に一つの蛋白の固まりが出來てそれから生物が發生し草木動物より遂に人間迄に進化したと云ふ說てござります

今此地球上に棲息する人の數は何程迄に至りしかと尋ねますると大凡十五億て御坐りまして其大半は我亞細亞洲に居住して居りますのてありますから亞細亞洲の人民が皆擧つて大奮發を致しましたなら他の四大洲に比敵するとが出來る譯て御坐ります人間以

外の生物に至りましては何程あるものなるや到底數へきれるとは出來ません如此盛なる狀態に於て地球の表面は目今草木人畜を以て充たされて居りまするけれとも今後幾億兆の年を經たる後には地球も亦彼の始め地球より離れて今は全く冷却せる月の如く段々冷却致しまして生物は再び此地球の表面に栖息すると能はざるの狀態に至る理で御坐りまする

總て生活せるものは草木人畜皆な始終變化して參りまするもので其變化の工合は最も善く生長する時期にあるもの(小兒等)に明かに分りまするが生長致してからも矢張り不斷多少の變化は致して參りますので眼に見ゆる變化を舉げますれば髮の毛などは毎日五十本乃至六十本四五十歲になりますと百本乃至百二三十本ツヽ拔けて行きまするけれとも後から又新たに毛が生へて參りまするから丸坊主になりませんので頭の上には大凡八萬本の毛がござりますから一日に五十本ツヽの毛か落ちて後から生へぬと致しますと千六百日乃ち四年と四ヶ月と廿日で頭の髮の毛は皆無となる理で毛髮の壽命と申しまするものは二年四年乃至六年で毛の生へ際にある短かき毛は四ヶ月乃至六ヶ月眉毛は三ヶ月乃至五ヶ月の壽命を以て居ります又上皮と申しまして皮膚の最も表面の部分にある細胞は矢張り毎日取れて參ります其量は目方に致しまして廿四時間に壹匁五分より二匁位づゝて是れは乃ち身體の一部分が毎日死して其代りに又內より新しくなりますので人の身體の各部は皆此の如く古きは去り新しきものを以て補ふと云ふ所謂新陳代謝を致して不斷變化して參ります故に人の健康を保つには始終身體に其材料を與へなければなりません而して其材料となる物は乃ち飲食物と空氣中の酸素で御坐ります空氣中の酸素は呼吸を致しますると自然に體內に入りまするけれとも飲食物は左樣に

參りません勉めて取らねばなりませんが之れは可成澤山の方が宜敷ござります小兒のときより小食の人は身躰が弱くござります肺癆等に罹り易い方でござりますから小兒のときより多く食するヿを御慣しになるヿが必用で御座ります多くと申しましても平らに三度三度多くなので一度に澤山食しては所謂暴食てそれは却て害になります食物は何にても宜敷御座りまして人によりましては肉類鷄卵牛乳等でなければ滋養にならぬ如く心得て居る人か御坐りまして甚しきに至りましてはソップが最も滋養に富んで居る樣な古い考を此廿世紀の今日に維持して居る人が御坐りまするには驚きます食物は水でも鹽でも皆身躰に必用なるもので皆滋養品と申して宜敷いので御坐りまして其他殊に身躰を維持し必用なるのは米飯パン等の含水炭素を多く含む物で御坐りまして世人が不消化物として擯斥する香の物其他の野菜も亦腸胃に取りては必用品で御坐ります故に可成美味の物を澤山食するヿが衞生に叶へまする

第二に御勸め致しましたいのは充分に御眠りになるヿで御坐りまして我々の神經力は日中醒覺して居る間は不斷消費されまして夜間眠むる間に此日中消費したる神經力を再び恢復致しまするので之れを銀行に例へて申しましたならば日中は支出の方で睡眠中に收入があると同じヿで支出の方ばかりが久しく繼きますと神經衰弱とか精神病とかを起す樣になりまして乃ち銀行が破產したと同じヿで御坐ります　私共が讀みましたる小學讀本の中などには楚の孫敬が縄を　梁より懸け其端を以て己れの頸に繫き眠を催したるときは首が締る故に目を覺して勉强をしたとか蘇秦は股を錐にて刺し宋の司馬光は圓き枕を用ひ目を醒ましたとか云ふヿが教へてありましたが此頃は多分如此無益有害なるヿを小學校で教ゆるヿは無

かろうと思へます
第三に御勸致しまするのは身體と精神の過勞を御避けになるとて御坐ります此頃度々見聞致しまするのは世の中の人が兎角運動運動と申しまして不適當の場合に迄運動をなし或は適度を越へて過勞となるとが往々御坐ります神經衰弱心臟病等の如き病氣には勉めて運動するは却て害になりまするし又病によりては今迄隠れて居りました病が運動過劇の爲めに發するとが御坐ります又學校の生徒などが遠足を致しまして疲勞と又流行病のある土地などでは其水を飲みまして病氣となり病院に參りまするとが隨分御坐ります又精神の過勞の爲めには食欲減退。不眠等を起すのみで御坐りません神經衰弱、ヒステリー又は其傾きを以て居る人には精神病等を起します
總て人の身体には恰も人の身代の如く貯蓄と云ふことが大切で御坐りまして貯蓄のない躰は一朝事あるときに倒れねばなりませんことは財產の貯蓄の無い人が事あるときに困ると同しことで御坐りますから平生身躰と精神の過勞を避け善く食し善く働らき善く眠りさいすれば大概の病氣には罹りませんそうして先づ此六十歲より八十歲の年齡を全ふすることが本會の御旨意にも協ふわけで御坐りましよう尤も人の年齡と申しまするものは世界の大なるに比較致しますれば誠に僅かなるもので地球より太陽迄の距離などは急行列車で少しも休まずに參りましても三百年はかゝりますし地球より最も近き恒星のツエンタウレンから光線が地球迄達しまするには三年半を要しますそうして光線の速力はと申しまするど壹秒時間に地球を七回する丈けの速力を以て居りまする其他の遠方にある恒星に至りましては此大なる速力を有する光線が地球に達する迄數千年を要するものが御坐りまして神武天皇の頃夫等の星から出て來た光

りが漸く此頃我々の目に映する位のもので御坐りましよう夫れを考へますと宇宙に於ける地球は恰も砂漠の砂壹粒大海の水壹滴の様なもので其上に棲息する人とか人の命などは御話にもならない程小いものでは御坐りましようが然し命は我々人間に取りましては此上も無き大切なもので御坐りますから本年は美味なる物を澤山召上り日中は適宜に御働きになり夜分は充分御眠りになつて身体に貯蓄を為し御健康を御保ちにならんことを祈ります

抄錄

●眼の衛生

本篇は醫學博士桐淵鏡次君の某所に於ける講話なり極めて有益のものなれば今之を抄錄して本誌に登載す

近頃日本でも衛生々々といふて大分衛生のことに心懸けるやうになつて來たのは大變結構であるけれども眼の衛生に就ては未だ十分一般の腦髓に這入つて居らないやうである眼は身体中で貴要のものたるは誰も知つて居ることで眼の潰れた人は「生きて居る甲斐がない」といふ位である然るに眼の衛生といふことは西洋でも漸く十年此の方著しく開けたることで千八百年頃にベエールといふ人が創めて眼の衛生といふことに就て著述をされたのであるけれども一向歐羅巴の人も之に注意をしなかつた漸く千八百六十四五年の頃からして注意をするやうになつて來たソレであるからして日本などには學校衛生といふことは眼の衛生に關係はして居ることであるけれども未だ不完全ではあるし眼の衛生を世間一般に知らせるのは強ち不必要ではなからうと思ふ

凡て病氣は衛生の進むに從つて減ずるといふことは誰も知つて居ることである眼病も亦眼の衛生の進むに從つて減じて來るのは當然の理である然らば眼の衛生といふことに心懸けたならばどういふ風の病氣が減じ且つ防ぐことが出來るかといふと先づ近視眼

の人が減ずることが出來るし又強い近視眼も減るやうになり總て眼の傳染病或はトラホームとか其他黴菌に依つて來る所の傳染病も段々減り遂には絶滅するであらう又盲目者の數も段々減つて來るであらう

近眼といふものは其子孫に近眼になる素因を傳へて行くものであるし又近眼の度といふものは子孫になるに從つて強くなつて行くものである延ては國の開進の度もソレが爲に妨げられるやうな理窟である強度の近眼になると屢々盲目になり失明をすることがある現に日本などでは近眼の數は比較的なか／＼多いです私が丁度先月東海道の汽車に乘つた時分に私の隣りに或獨逸人で教育のある人であつたが同乘して居て「日本の若い人々には大變近眼が多いがどういふ譯でありますか」といつて質問を受けたるとがある歐羅巴あたりには隨分近視眼が多い其多い所から來て居る人にさういふ質問を受けたのは實に意外であつた併ながら退いて考へて見るに近視眼は日本には割合に多いです是れとても眼の衛生が未だ不充分であり世間一般が眼の衛生を心懸けないからであらうと思ふ

近視眼の豫防法といふものは今から三十五六年前に始めてコーンといふ人が一万以上の學校の子供を調べて見た所が一番級の下の者から段々上の級に行く程近眼の數が殖へて行く又小學から中學大學と進むに從つて益々近眼者が殖えて居る又其度が強くなつて居るといふことを見出して兎に角學校の衛生といふことに心懸けなければならぬといふ事を八釜敷く主張して今日歐羅巴では皆注意するやうになつて來たのである故に學校醫たるものは無論眼科學の普通の教育ある者でなければならない現に匈牙利あたりでは千八百八十五年からして殊に眼に就ての學校衛生に注意して居る其外獨逸あたりに於ても昨今に至り大變八釜敷くなつて來た凡て子供は學校衛生の不完全なる時は近視となり得るものであるし又近視の素因を有して居るものはソレに依て益々強度の近眼

となるものである學校及び家庭に於て大に注意すべき事は子供の就學時間を先づ極めることである先づ七八歳の子供は三十分毎に十五分づゝの休息時間を與へて而して一日に三四時間以上やらしてはいけない十歳から十五歳まで位の者は一日に六時間一時間毎に十五分づゝの休息を與へるさうして年長者も一日八時間以上は細かな仕事をしてはならない其外必要なることは姿勢を正しくすること姿勢を正しくして書物なり其他細かな物を三十サンチメートル以内で成たけしないやうに故に學校の机なども餘程注意の必要がある學校の机と椅子の上下の距離即ち高さは肱から臀部までの其高さでなければならない即ち身体の長さの八分の一か或はソレに少し餘計位の腰掛から机までの距離がなければならない次に机と椅子の前後の距離は餘り離れて居らず殆ど前後の距離は無い位が宜しい椅子からして床までは下肢が眞直になつて樂に床に着くだけのものでなければならない即ち身の長の三分の二から十一分の三位の間でなければならない椅子の寄懸る所は十度から十五度位ろ後ろに傾向いて肩の所まで有るものでなければならない机の平面は二十度程斜になつて其机に向つて光線が十分其部屋に這入るやうにならなければならない光線は無論左の方から來るのが宜しいが右方或は後ろ或は上からでも宜しい併し決して其子供の前の方から光線の這入るやうにしてはならない前から子供の顏の方に向つて光線が這入ると其級の者に非常に近視になる人の多いといふことは歐羅巴に於て隨分例のあることである窓の大さと部屋の大さとは窓が一のものなら部屋が四から六までの大さのものでなければならないソレよりも小さい窓ではソコで讀書する者に宜しくない殊に子供といふものは意味なく自分の顏を本に近づけるものであるから教師及び家庭の監督者は目的なくして子供が書物に顏を近づけぬやうに注意しなければならない又日の暮方や朝早く薄暮い中に讀書などは甚だ宜しくないことである總て書物の紙は極く白くして光澤がなく其上に

ある所の活字は極く鮮明のものでなくてはならないア文字の大きさは少なくも一、半ミリメートルの丈を以て居るものでなければならない極く幼年の六七歳の者であれば二ミリメートル位の丈を以て居る文字でなければならない文字は成べく方形に循るやうなものが宜しい且又讀書の際には成たけ頭に充血しないやうな注意しなければならない書物を顏に近つけると充血を來すものである夜間仕事をする時にも明りの熱が顏に直接に當らんやうに注意する若し子供の時に近眼といふことを父兄若しくは教員が氣づいたならば其子供に相當の眼鏡を與へて而して前に述べたやうな事を倘ほ堅く守り遠用近用共に近眼の眼鏡を用ゐるやうにしなければならない間々日本で見るけれども近眼患者か近い仕事をする場合に眼鏡を脱して書物などを讀んで居ることがあるが是れは益々近視を進むる虞があるからさういふことは凡て注意しなければならない

以前は近視患者には其の度より弱い眼鏡を與へて居つたけれどもさういふ必要はない殊に二十歳前後までの人には其人の近眼全部を矯正する眼鏡を與へてソレを遠用近用に用ゐさせて差支へない又用ゐさせなければならないものである三十四五歳以上になると遠用と近用との眼鏡を別々にしなければならないものであるさうして成たけ書物に接近しないやうに又身躰の衰弱した時分には餘り眼を使はないやうに以上述べた點を注意さへすれば近眼は左程に進むものでない

近眼の人が間々眼鏡屋などに往つて自分で好い加減の眼鏡を選んで掛ける人があるけれどもソレは大なる弊害がありまして其道の人に適當の眼鏡を調べて貰はなければならないさもなければ近眼の度が無闇に進むか漸次目に疲れを覺えるか何れにしても能く注意をしなければならん强近視者が其衞生法を守らん場合には遂には網膜の剝離とか黄斑部の出血とか其外失明する病氣を起すことは決して稀れてはない

餘事てはあるが近視眼に就て一言附加へて置きたい

のは近視者は軍人として採用されないものであるかといふに墺太利では十度以下の近視眼者は合格し得ることになつて居る獨逸では六度弱の近視者も尚採用し得といふことである斯の如き强近視眼者も實際採用し得るといふことは少し疑はしいことではあるけれども兎に角二十度以下の近視者であれば軍人として採用して一向差支へなからうかと思ふ

眼の傳染病豫防といふことは近頃黴菌學が進んだ爲めに又著しく發達したものである既に眼の結膜に及す所の刺戟即ち塵芥、或は不良瓦斯、或は不眠の夜、或は寒き風、及び酷暑の炎熱、雪中の日光反射或は多人數雜沓して腐敗した空氣とかいふものは皆吾々の結膜に害を起すものであるソレが爲に結膜病を起しますソレとは違ふけれども種々の黴菌が眼に這入つて色々の病氣を起す結膜から多量の分泌物の流れる眼病は皆な傳染性のものと考へて差支へない故に此分泌物の餘計出る眼の人であつたならば其人は自分の手拭とか金盥とか衣服及び夜具の如きものは注意して別にしなければならない殊に顔を拭ふ所の手拭は消毒を怠たらぬやうにしなければならぬ今日までは人が唯結膜炎と思ふて居つたものでも其中には色々の病氣を含んで居つて即ち傳染する所の性質を具へて居るものがある俗に稱する爛れ眼とか或は流行眼とか素人などは申して居るが是等は皆黴菌があつて他に傳染して行くものである今日では適當の治療法があつて是れは癒すことは出來るが普通人は傳染といふことを心懸けて置かなければならない眼の傳染病といふものは空氣から傳るものは先づ無いといつて宜しい皆手拭等の媒介に依つて傳染するのである彼の初生兒の膿漏眼俗にいふ風眼の如きは盲目者の大部分は此病氣の爲めに潰れたものであつて是も豫防法が近頃は完全になつたから大變其數は減つて來て居る其豫防法といふものは千八百八十四年にクレデーといふ人が行ひ始めた法であつて子供が生れたならば先づ産湯を使ふ産湯を使ふて其後に其顔面は別に取つた所の淸潔な水で拭つて眼の圍

りに附いて居る汚物を眼の中に入れないやうに注意することであるさうして眼の中には一滴の二プロセント－五十倍の硝酸銀水を滴す是に依つて初生兒膿漏眼といふものは非常に減じたことである然るに日本では初生兒膿漏眼といふものはまだなか〳〵見るのは畢竟産婆初め世間の人が斯ういふことに心懸がないのである少なくとも産婆といふ者は此クレデーの法といふものを行ひ得る智識を具へて居らなければならないと考へるさうして初生兒が目に淋衛の病狀を起したならば早速醫者を訪はねばならぬ然らざれば其子供は失明するといふ危險がある又日本では大人の風眼といふものは幸ひと今日減つて來たといふのは昨今に於ては淋病の毒が眼に這入ると恐しいといふことを段々に知つて來たからである其他實扶的里の患者がある場合には其手拭とか或は其他のものを能く消毒することを心懸けないと眼の中に實扶的里毒が來ることがある眼に來る所の實扶的里は餘程惡性のものであつて屢々失明することがあると承知して居らなければならない

トラホームは今日では世間の人が非常に八釜敷くいひ騷ぎもするし恐ろしいといふことを知るやうになつたのは大變に宜しきことであるがトラホームでもないのに大變に心配して騷ぐことも屢々見受けることであるから成たけ注意をしなければならないトラホームは分泌物の盛んの時代には大變傳染し易いけれども分泌物の少ない時分には幾らか傳染力も少ないものであるトラホームは眼の衛生が進めば進むに從つて其跡を絕つことを得るものであると考へるトラホームが若し學校などにでも現はれたならば早速其患者を休校させてそれ相當の治療を受けしむること及び醫師の許を受ける迄は休校させることに注意しなければならないトラホームの豫防といふものは先前にいつた通り分泌物に依つて傳染するのであるから患者の所有物を別にして能く消毒することが必要である

又結核が眼に來ることがある是は結膜に來る結核は

結核の患者が自分の舌で若し人の眼を舐めてやつたり或は結核の痰などが附いて居る所の手巾で自分の目を摩つたりさう云ふことで結膜に來るのであるから其樣なことをしないやうに心懸けなければならない其他眼の深部に來る所の結核は眼科の方では豫防することが出來ない梅毒が指とか或は手巾とか或は歐洲流の接吻等に依つて眼に來ることがある或は親とか乳母とか云ふ者が舌を以て小供の眼を舐めてさうして梅毒が眼に來ると云ふことがある故にさう云ふことは決してしないやうにすることである其毒の深部に來ることのあるのは今此處には說かぬことにしませう

ソレから薄暗い處で讀書等を爲すのは眼に害があると同じく餘り眩ゆい處で仕事をするのも甚だ害がある又雪の降つた翌日日光が反射して非常に眩ゆいことがあるさう云ふ處で仕事をしてはならない私共の屢々見る所であるが眼に直接に日光を受け直射を受ける處では仕事をしないやうにしなければならぬ其他小供を日向に寢かして置くと云ふことは大變害があるそれが爲に弱視になることがある其他强い電光の爲に眼病を起すことがある故にさう云ふ所で仕事をする人は必ず黑色の眼鏡をかけることである人に依つては靑い眼鏡を掛ける人があるが是は効能が少ないばかりでなく此場合には却て害がある

斯う云ふ風に日光に直射され或は雪後日光の反射を受け或は强力の電光に逢つた場合には其人は强い羞明を起し始終涙を流し眼を開くことが出來ず結膜は眞赤になり患者は非常に困難をすることがある其他强い所の酒を濫用し及び煙草の濫用と云ふことは亦た中毒症を起すもので殆ど失明に近いまで視力を減ずることがある此酒或は煙草の中毒と云ふものは時機を失ふと遂に快復しないものである若し酒或は煙草を用ゆる人で視力が少し減じたと思つたら赤い色を見て其色が以前の如く明に見えないやうになつたならば早速醫者を訪はねばならぬ此病氣は歐羅巴には大變多いけれども日本には先づ少ないやうで

ある私の知つて居るところでは日本人でも此病氣に罹つて危險に瀕した所の人があるが至つて數は少ない其他藥に因て眼に中毒症狀が來て弱視を起すことが澤山ある是は醫者の方の注意で此に說く必要はあるまい又脚氣の婦人は其兒に乳を飲ませると云ふと全身病を起すと共に又眼に危險の病狀を起し失明することもあるものであるから眼の方からしても脚氣の婦人は其兒に乳を飲ませぬやうにしなければならない

眼衛生の進むに隨つて風眼等は全く迹を斷ち得るものである其他眼の眩燿に因つて來る所の眼炎及び近視の增殖を防ぎ得又傳染眼炎を著しく減じ得るものなりと信じまする故に眼衛生と云ふものは普通の衛生と並んで大に必要のものである然るに今日眼衛生は一般衛生からして別物とされ居ると云ふことは吾人の甚だ遺憾に思ふ所である

（完）



寄書

●麻疹小話

醫學士　竹中成憲君

左記の小稿は餘り通俗にして大方專門家の一讀を乞ふべきものにあらざるも某所に於ける小集の席上小話にしてコプリク氏斑の事は餘り書物に見へざるやう考へらるゝを以て無禮を顧みず之を公にして一は此斑の果して實際上診斷の上に價値あるや否やを諸君の力に據て確めむと欲す讀者其心して予を咎むべきにあらずと云爾

麻疹は今回屆出を要する事となりたるに因り乍要心新しき書見に因り得たる數項を左に記さむ

原因　は一般に分裂菌なるべしといふカノン氏の一千八百九十二年（明治二十五年）稱へ始めし桿菌の果して眞のものなるやは未だ確定せず

予の考にては麻疹は痘瘡、猩紅熱、發疹、チフスと共に病毒瓦斯體なり或は化學的のものにはあらざる乎漆にかぶれるが如き感あり

潜伏期　は一週間以上三週間以内と一般に稱せらる

予の經驗に依れば滿十日なり

診斷　多くは發疹に因り初めて之を知るを當とすれども發疹までには凡四日間を經過したるものと知らるべし而して發疹の顏面に初發するは本病の特徵なり四肢には最終に來り屈側に著明なりとす又疹は指壓に因り消失するものたらざるべからず

早期診斷　としては彼のコプリク氏斑を忘るべからず

本斑は皮膚發疹に先つ事二十四時間以上もし二時間以内に頰の粘膜及び口唇粘膜に生ずるものにして其形小、色は光澤を有する紅色、其中央に一個の類靑、白點を有す

眼球結膜加答兒　は頗る初期に現はるゝもの大に診斷の補助となるは何人も疑はざるべし

愛氏內科書に元來の發疹と異り時として丘疹又は一過性蕁麻疹の前徵疹として來る事を說くも餘り價値なきものと信ず本病患者か新に羽毛を去りたる鵞鳥樣の息氣を放つといふも是亦實用とならず

合併及び後發病　としては氣管支肺炎、口內炎、水痘、百日咳嗽、瘰癧、結核、耳病

靑森縣八戸の同臭中野君は一流行に水痘の八名を見たりといふ

療法　口內の淸潔法を忘るべからず

內服は安息香酸ナトリウム位にて足る

予は必林を好む

識別　風疹（紅疹＝レーテルン＝ルペオラ＝三日はしか＝風はな＝ちぼろせ）との事を言ふものあれとも本症は麻疹の輕症と見做して可なり

傳染性紅斑　はシュミット氏の記述する所春及び夏期に流行し多くは女子を侵す發疹多形にして最初頰に生じ後顏面全部に蔓延し疹は合併湊合するの傾あり紅斑は凡十日間にして色素の後殘物なく消失す

外國の風土病にしてデング熱なるものあり熱帶亞熱帶地方（印度、アメリカ）に流行し歐洲にては土耳古（コンスタンチノーペル）及び小亞細亞にあり原因不明俄然大熱を發し凡ろ一週間にして體温下降す其發熱と下降の際に皮膚に發疹來り爲めに麻疹との識別を要す膝關節に劇痛を發するを以て急性レウマチスと誤認する事もあり我國も交通頻々となりたれば此の如き外國病も知らさるときは飛た間違を來す事あるべし麻疹小話の序に婆心ながら一言を附す（完）

正誤　本誌前號第百四十七號中竹中學士「鍋論」中左の通り正誤す

鈍鐵とあるは純鐵●非衛生的の下鍋の字を脱す●起すにのには不用●急性の下急性は不用●ヂフチリアはヂフテリアの誤●除分は餘分の誤

會員寄書

新潟支會々員　ワ、ク、女

●氷罨法と貞婦

氷罨法を行ふに當りて予常に苦心すると少なからず彼の深夜人定まり萬籟聲なきの時に方りては満腔の愛を以て看護するも尚ほ時に或は睡魔の囚となりて氷嚢は患者を離るゝとあるも眼瞼敢て開かず知らず識らずの間に其務を盡さずして罪を天地に謝する事

なしとせず此時心中の不快實に筆舌の能く盡す處に非らざるなり或は高所より糸を垂下し末端に氷嚢を結びて局部に載するも小兒患者等に在りて殊に頭部に施す場合に於ては往々局部を逸して密接を欠き爲めに好果を得難きこと少しとせず依て是を予の小兒の主治醫なる醫學士工藤秀一郎氏に諮る先生曰く吾が父脳を病むこと久しく母は其の看護を爲して氷罨法を行ひつゝありしに近來一種の簡便法を案出して之を實行すと於是一日先生の北堂せい子氏を新潟市西堀通り工藤小兒科病院に訪ひ教を乞ふ北堂は齢未だ五十に滿たざる温厚なる貴婦人なり予が爲めに淳々語らるゝ處を聞くに曰く

回顧すれば去明治十八年の春夫彦美一度脳病に罹りしより今日に至る迄十有八年此間一日として氷罨法を行はざることなし時に嚴寒の深夜北陸の天地は氷雪に鎖ざされ燈火も爲めに輝かざるの際氷嚢を持するの手は漸々冷却して殆んど如何とも爲し難きに至る依て豫め布片を手掌に卷き或は袖を以て手甲を被ふも尚ほ且つ知覺を失ふこと一夜幾回なりしを知らず加ふるに終宵就眠する能はざるか故に身体の疲勞亦尠しとせず此間默讀以て睡魔を驅るに利用せし小説今積んで數百冊に及べり殊に去明治三十年一月より同年十一月に至るの間は日夜片時も患者の枕頭を離るゝこと能はざりき此時に方り氷罨法を行ふの一方法を案出せり即ち先つ一筋の細き紐を以て患者の枕の中央部を縛り此細紐に更に長サ貳尺斗なる他の細紐の中央部を枕上に於て一卷きし兩端は之を左右に延し置き其枕の上に西洋手拭の如き不良導質の布片巾四五寸長サ大人にて壹尺位のものを敷きて患者の頭部を其の上に置かしむ然して後ち氷嚢に氷片或は雪を入れ空氣を出して嚢口を括ること常の如くし是を「ハンカチーフ」の如き四角布の一隅に片寄せて包み

布の四隅を相對して兩端つゝ交々結びて可成囊中に在る氷雪の大部分が患者の頭部に密接する樣安置す可し次て先に敷き置きたる西洋手拭の如き布片を以て氷嚢入りの「ハンカチーフ」を後頭部より前額部に向て被ひ而して先きに左右に延し置きたる紐を把り患者の耳の後部を經て兩側より前額部に向て卷付け來り「ハンカチーフ」の結び目の處に至りて右よりの紐は其の結び目を通じて又右へ返し左よりの紐は同樣にして左へ返へして氷嚢を頭部に密接せしむ可し但し此時に注意す可き事は氷嚢中の氷雪は紐よりも前額部即ち上部に止まりて溶解せし液體のみ後頭部即ち下方に溜まるべく裝置するを要す斯くする時は氷嚢は充分患者の頭部に密接するを得て逸出或は動搖するの憂なきのみならず看護者も暫時の休息或は他用を便するを得べし然るに時間の經過するに隨ふて氷雪溶解して氷嚢自然に後部に落つるの虞あり故に豫め氷嚢の下方に手拭の如きものを幾重にも折りて受台となすを要す又空氣の氷嚢内に滿つるとある時は紐及「ハンカチーフ」は其儘にし只氷嚢の結び目のみを緩るめ空氣を壓し出し置く可し此方法を用ゆれば患者若し寢返りを爲すも氷嚢は依然として局部を逸せず徹夜氷罨法を行ふも僅に三回或は四回氷雪を取り換ゆれば充分なりと

予此方法を聞き歸宅後是を實驗せしに其の裝置極めて確實にして大に益する所あり依て文の拙劣を顧みず同感の方々に其の實行を希ふと共に工藤北堂が十有八年の久しき辛苦に依て得られたる經驗を紹介せんとするものなり

因に記す工藤醫學士嘗て高等學校在學中病に罹る母堂故山に在りて其の報に接し憂苦措く能はず思へらく今若し此一子を失はゞ家名誰に依て傳ふることを得んやと於是其の最も好まるゝ處の喫烟

を斷然廢止して愛兒の遊に健康に復し無事に學業を終らん事を神明に祈誓せられたり爾後七年工藤氏既に醫科大學卒業試驗を受け終り而も其の成蹟良好なるを聞得られし時は校堂の時辰器正に午前十一時半を指せるに氏は晝飯の鈴の鳴るを待つに遑あらず急に車を電信局に走せて母堂に宛て試驗成蹟良し喫烟再始せられたしと打電せしと云ふ嗚呼是れ何たる美談ぞ母は子の爲めに其の嗜む處を捨て子は母の爲めに食を忘る其間親子の情愛實に掬す可きものあり況んや夫人が夫の爲めに本文の如く十有八年の長日月看護周到一日の如くなる等是れ唯一片の茶話として聞流さんと欲するも得べからざるなり依て茲に付記す



衛生叢談

●不時の災難に遭遇したる時の心得（前號の續き）

在大學院　Dr.　Y.　Y.

●火傷した時の心得

火傷と云ふのは至て多い出來事で、或はランプが落ちて火が付くとか、或は火の中に手を突込むとか、或は燒火箸に觸るとか、或は又鐵瓶をころがして熱湯をあびるとか、或は湯げに吹かるゝとか、或は硫酸とか硝酸とか云ふ樣な、強い藥の爲に火傷をしたと云ふ樣な事は常に見聞する處である、火傷の原因は此外にもまだ色々あつて、一々揭ぐれば限りない事であるが、去りとて其結果は輕重の差こそあれ皆な一樣であつて、極く輕いのでは火傷をした所が赤

くなつてピリ〳〵痛む位であるが、之が少し强度のであると水泡が出來る、モット强いのになると、其部分が黒く焦げて仕舞ふのである、勿論火傷の爲に起る危險は其の度の强い弱いよりも、寧ろ火傷した部分の廣いと狹いに依るので、例令へ輕度の火傷でも廣い部分に渉つて居ると、遂には性命を失ふ恐れがあるのである、兎に角火傷は其の輕重に不拘危險のものであるから、豫め注意して火傷をせぬ樣に用心するのが肝要である、これは主として一家の主婦たる方々の猛省を仰がなければならないのである、若し不幸にして火傷をした場合には假令へば、

●釣ランプ杯が落て石油をあびて、之に火が附いたと云ふ樣な場合には直ぐ疊の上に倒れて、ゴロ〳〵と頓がつて火を押し消すのが最もよいのであるが、世間には中々そんなに落着いた人は寡く、大抵は狼狽して其邊を馳け廻るから、火は風の力を得て一層烈しく燃へ上つて、終には不幸なる最後を見る樣な事になるのである、若しコンナ不幸な人があつたならば、傍に居る者はドウしてよいかと云ふに、水などを持て來て掛けても少しも役に立たない、かい巻なり蒲團なり毛布なり、或は又敷いてある段通なり、或は又此等の物が間に合ない場合には、自分の着て居る衣類を脱でなりして、火の付いた人に被ぶせて、其の身躰を捲いて仕舞ふと、丁度火消壺に火を入れたと同じ樣に、風が通らなくなるから火が消へて仕舞ふのである、斯云ふ工合にして火が消へたらば、其處で初めて水を持て來て、其の人に衣類の上からぶつかけるのである、こうすれば衣類の綿などに付いて殘つて居る火も悉く消へて仕舞ふから、そこで火をあびた人を靜に暖かき部屋に連れて來て寢かして、直ぐ醫者を呼びに遣るのである、そうして若し火傷した人が渴を訴へたなら、溫かい茶とか砂糖湯とかと云ふ樣な暖かい飲料を與へて、元氣を附けて遣るのがよい、强く火傷をした跡では躰温が下がつて來るものであるから、斯云ふ風に暖かい部屋に入れて暖かいものを飲ませて、躰温を保つてをくのは

誠に必要な事なのである、次に衣類を脱せなければならないのであるが、之れにも亦注意を要するので、衣類を脱せる爲に怪我人を強く動かしたり、或は火傷した部分が擦れる樣な事があつてはならない、若し此の爲に水泡でも破れると、怪我人に非常の苦痛を與へる計りでなく、豫后にも非常に影響するのである、衣類と性命とは取換へる譯には行かないのであるから、遠慮なく鋏て衣類を切り開いて脱せるのがよい、若し又衣類が火傷をした部分に附着して居る樣な事があつたらば、其部分は周圍を切つて殘して置くのがよい、

若し醫者が直ぐ來ればよいが、左もなくば何んとかして、怪我人の苦痛を和らげて遣らねばならないのである、夫れには最もよいのは、火傷をした所が空氣に觸れない樣にして置くのがよい、であるから最もよいのは近處に藥店があれば、亞麻仁油と石灰水と等分のものを買つて、之を清淨な綿か布片に浸して、火傷した部分に當てゝ置くのがよい、若し此藥の代りに次の處方に從へば尙ほよい、

處方

亞麻仁油
石灰水　各一〇〇、〇
沃度ホルム　一〇、〇
右混和外用

若し藥が手近で間に合はなければ、取敢へず其代りにオレーフ油、胡麻の油、鷄卵の白身、ベタ、豚の油の樣な類を代用してもよい、或は又其の代りに若し皮膚に傷が付いて居らなければ、温飩の粉などを撒布して置いてもよい、そうして其上に厚く綿を當てゝ繃帶をして置くのがよい、

若し廣い部分の火傷をすると、當人は割に靜かで痛も左程感ぜず、只た深く溜息をついて頻りに水を飲みたがるのである、こう云ふのは兎角豫后が面白くないから、一刻も早く醫者の治療を受けねばならない、

ランプに限らず火で火傷した時も、亦湯で火傷した

時も、同じ樣にすればよいのである、若し過まつて生石灰や、苛性加里、苛性曹達の類で火傷した時は、澤山に水を灑ぐか、又は水に入れて此等の藥を洗ひ落すがよい、又此等の藥が落ちないで困れば、酢に水を混ぜたものか、橙の汁などで落すがよい、そうして置いて前と同じ樣に油を塗ればよいのである、若し又生石灰の碎片が眼に這入つた時には、砂糖水で洗ふと痛みが直ぐとれる、

●硫酸、鹽酸、硝酸抔で火傷をした場合には、多量の水を灑いで洗ふ斗りでなく、曹達を水に溶かして之を掛けて酸の働きを止めてから、前の樣に油を用ふればよいのである、若し曹達が手許になくば、壁に用ふる石灰を水に溶いて用ゐてもよいのである。

●結核の遺傳に就て

結核と云ふのは、結核黴菌と云ふ黴菌の爲に起る傳染病で、人が百人死ねば其内七人は結核の爲に死ぬのであると云ふ位に多い病で、之が肺に起れば、即ち肺結核、或は通俗に勞咳とか肺病とかと云つて、世人が最も恐れる病となり、腦に起れば彼の多數の小兒の生命を奪ふ處の腦膜炎となり、腸に起れば腸結核、睪丸に起れば睪丸結核、皮膚に起れば狼瘡となると云ふ樣な工合に、人間の身躰中何處でも、結核にたかられないと云ふ部分は殆どないと云ふ位に恐しい病であるから、我々會員は全力を盡して結核の豫防法を講じなければならないのである、結核が傳染するのは色々の條件に由るのであるが、其内でも此病が遺傳即ち親から子に傳はるのが甚だ多くない、今爰に述べようと思ふのは昨年末の醫學雜誌に、獨逸ベルリンのフリードマン氏が報告して居る處の大要を抄錄したのであるが、之を見ても如何に結核患者に遺傳と云ふ事が大なる影響を及ぼすかと云ふ事が、明らかになるであらふと思ふ

フリードマン氏の調べたのは、都合二千九百八十四人の肺病患者であつて、其内兩親に結核患者のあつた者、即ち言ひ換ふれば結核の遺傳のあるものが

九百八十三人で、丁度百人に付て三十三人の割に當るのである、次に兩親に結核患者がなかつたと云つて居るものが七百五十一人で、兩親に此病に罹つたものがあるかないか不明なのが千二百五十人であつた、今上に述べた九百八十三人の遺傳を有して居る結核患者に就て、尙ほ細に調べると、父親が結核に罹つたのが五百三人、母親が罹つたのが三百二十三人である、其他又兄弟姉妹の中に結核に罹つた者がないと云ふ事を調べたのに、前に述べた百五十七人の兩親共結核に罹つたと云ふ患者の中には、兄弟にも結核患者があると云つて居るのが五十六人、次に五百三人の父親に結核患者があると云つて居る患者の中では、斯云ふのが百二十六人、次に三百二十三人の母親が結核を病んだと云つて居る者の中では、斯云ふのが七十四人、遺傳があるかないか不明な千二百五十人の患者の中では、斯云ふのが百九十五人、遺傳がないと云つて居る患者の中でも亦斯云ふのが百〇七人あつた事を發見したのである、して見ると遺傳のある結核患者は勿論、假令へ遺傳のない患者でも、其兄弟の内に同じく結核に罹つたのが頗る多いのである

此の調に由て見ると何んと結核患者には兩親から遺傳をするとか或は又兄弟の内に結核患者があつたと云ふ樣なのが多いではないか、併し尙ほよく調べて見たら、決して此位の事ではきくまいと思われる、手近い處前に述べた遺傳が不明であると云ふ結核患者の中には、其の病歷即ち其人の血筋を調べて見ると、ドウモ怪しいのが頗る多い、假令へば母親は丈夫であつたが、父親は何か分らぬ病氣で死んだ、と云ふ樣なのでは、此の分らぬ病氣と云ふのはドウモ結核らしく思われる、であるから若し此云ふのも遺傳のある患者の中に加へたならば、それこそ結核患者の大多數は遺傳を有つて居ると云つても宜しい、斯云ふ風であるから此の恐るべき結核を豫防するには、先つ第一に遺傳を受けない樣にするが急務である、去れば結核の根治療法が發見せらるれば兎に角、

夫迄の處は注意に注意を加へて、結核患者は勿論其の遺傳ある人の血を已れの血族に交へないのがよい、言ひ換ふれば斯云ふ人々とは緣組を爲ない方がよい、去れは緣組抔の場合には、よく／＼身元を調べて見るは勿論、假令へ遺傳は不明でも怪しいのは止す方がよい、同じくフリードマン氏の報告して居る内にも、遺傳は不明であるがドウモ病歷から云ふて怪しいからと云て擧げてある例が二つ三つある、之も參考の爲に茲に揭げて置く事としやう

（一）二十六歲の肺結核患者であるが、父親は不明の病氣で死し、母親は腫れる病で死し、兄弟は四人あつたが皆夭死をして仕舞つた、當人は子供の時から眼ぼしがよく出來、二十一年前には血を吐いた事がある、十二年以來は骨の腐れる病に罹つて居つた、

（二）三十四歲の肺結核患者で、父母の事は不明であるが、患者には五人子供があつて、其内三人は脳膜炎や下痢する病で死んで仕舞つた、

（三）三十九歲の肺結核患者で、父母の事は同じく不明であるが、患者の兄弟の一人は三年前に胸の病氣で死んで、患者は十六年前に頸に瘰癧が出來て、手術を爲て貰つた事があり、十四年前には血を吐いた事があり、十三年前に結婚して三人子供が出來たが、皆な弱くて始終咳をして居つたが、遂に二人は死んで、殘つて居る一人も十一歲に成つたが、頗る弱くて今に咳に苦んで居る、

兎に角君子は危きに近寄らずと云ふ諺を忘れないのが一番である、尤も結核患者が結婚をするのはよいか惡いかと云ふ事は、啻に醫學的の問題斗りでなく、社會的の大問題であるから、此事に就ては目今盛んに議論のある事である、機會を見て御話する事にしよう

●唾液の話

唾液と云ふのは、御存じの通り、口中に絕へず出て居る、少しく溷濁せる無色の溶液で、之が何處で出來るかと云ふのに、口の周圍には左右三つヽ、都合六つの唾液腺と云ふものがある、其の一つは顎下腺

と云つて、鳩の卵位な大さで丁度顎の下に在り、一つは舌下腺と云つて、前のから見ると遙に小さく、形狀も亦細長くして口腔の底部丁度舌の下の處に在て、尙ほ一つは耳下腺と云つて、唾液腺の中で最も大きく、丁度耳の前の處に在て、俗に云ふお多福風即ち醫者の方で云へば耳下腺炎と云ふのは、此の唾液腺が腫れ上つて、顔が惠比須樣のようになるので、之は皆さんの御存じの通りである、

扨て此の三種の唾液腺で出來た溶液は、精しく云へは差別があるが、歸する處唾液腺から一定の管を經て、口腔の中に流出て相合した者が即ち唾液で、其の一日に出る分量は中々たいしたもので、大凡千五百グラム以上即ち七合七勺以上で、一日に出る尿の量から見ると多いとも少い事はない、斯る多量の唾液が出るのは、之れ皆な神經に關係があるので、物を噛んで口中の粘膜を刺撃するとか、美味の食物を見るとかと云ふ樣な爲に、神經が反射的に刺撃せられて、此の爲に唾液が出るのである、

唾液の出るのは是で明らかであるが、さて此の出た唾液が吾々の生活に、如何なる關係を有つて居るかと云ふのに、湯を沸すのに炭が必要であると同樣に、人間も生て居るのには、食物が必要である、併し假令へ食物があつても、之を消化する事が出來なければ、炭に火が付ないと同じ事で、何んの役にも立たないのである、消化と云ふのはドウ云ふ事であるかと云ふのに、之は喰べた食物の中から體に不用の部分と、入用の部分とを分けて、其の入用な部分丈けを、容易く血の中に取上げ得る狀態に變ずる事であるが、此の消化を營むのには唾液が非常に必要なのである、先づ第一に食物を口中に入て、歯で噛みこなして飲込んで胃の中に送る時に、若し唾液がないと食物が中々樂に滑らかに辷つて往かない、次に唾液の中には色々な成分があるが、其の中に「プチアリン」と云ふ者がある、之は醱酵素と云ふものゝ一種で、之が消化に非常に効を顯すのである、本會の講演で諸大家が屢々演說して居れるから、皆さ

んは既に御存じの事と思ふが、人間の採る食物を化學的に大別すると、蛋白質と、脂肪と、含水炭素の三種に分る事が出來る「ブチアリン」は此の三種の中で蛋白質抔には働かないが、含水炭素には實によく働いて、之を吸收し易い狀態にするのである、されは米飯や、野菜抔の如くに含水炭素の多い食物を消化するには、唾液が非常に必要である、であるから、米だの野菜抔の類を喰る時には、可成長く口中て嚙んで、可成よく之が唾液と混る樣にして後ちに、嚥下ことが必要である、彼のお茶漬をかき込んだり、御飯に雞卵をかけて唾液に消化されない蛋白質で、飯粒のまわりを包んで喰べたりすると、唾液が之に働く事が出來ないから、此等の消化には頗る害がある、武士は早飯、早糞、早走りと云ふが、之は衛生上最も惡しき言葉であると、某大家が本誌で述べられた事があるが、記者も頗る同感である、

以上述べた樣な次第であるから、唾液は可成之を利用して、生活の健全を圖らなければならないのである、無闇に唾液を吐いたり、或は憎い奴だからと云つて唾液を吐き掛る人抔は、實に生活の經濟を心得ないたわけ者と云はなければならない、



普通看護法（第十八）

在大學院　Dr. T. S.

●發汗療法

發汗療法と申ますのは、俗間でも常に用ゐます療治の內で御座いまして、風邪をひいた時抔に熱い砂糖湯や、葛根湯の類を飲んで夜具を被つて寢て汗を出す抔は、つまり發汗療法の一つで御座います、醫學の方でも腎臟病の人や、慢性の「レウマチス」等の人に發汗療法を用ゐる事が御座います、此には日に

二三時間位ヅヽ毎日か、或は隔日に患者の身躰を濕つた布片で包むとか、或は暖めた砂浴や「モール」浴や湯浴や、或は又熱した空氣や蒸氣抔を用ゐて發汗させればよいので御座います、發汗療法の内最も普通に用ゐますのは、

●濕温發汗療法で、此には先づ蒲團の上に大きな油紙を敷いて、其上に毛布を一二枚敷き、更に其上に微温湯で絞つた「シーズ」(上敷布)を擴げ、其上に患者を裸にして臥させ、下に敷いた濕つた「シーズ」と毛布で頭を除くの外患者の全躰を包んで、尚ほ其上に二三枚の毛布か或は夜具を掛けて置くと、二三時の内には患者は大に發汗します、醫者の命じた時間丈け此の療法を行ひましたらば、絞つた手拭で患者の身躰を拭ふて後ち着物を着せて、静に寝かせばよいので御坐います、

●砂浴及び「モール」浴は日本では餘り用ゐません、砂浴と申ますのは、攝氏の三十七度から四十度位に暖めた砂を風呂桶の中に満たして、丁度湯に這入る様に此中に患者を頸まで入れて、大凡そ十分間から三十分間位措くと發汗します、勿論頭には冷水で絞つた手拭か、或は又氷嚢を措く事を忘れては不可ません、一定の時間が來たらば患者を砂から出して、攝氏三十二度位な湯の中に入れて身躰に付て居る砂を洗ひ落した後ち、前にも述べた通り静に寝かせるので御坐います、

「モール」浴と申ますのは、「モール」と申まして獨乙の「フランチェンスバード」、「テプリッツ」、「エルステル」地方に産しまする泥を熱湯で溶いて、攝氏の三十度から四十度位な粥の様なドロ／＼した物を拵へて、此を風呂桶に満たして、砂浴と同じ様に、此中に十分間から三十分間も患者を入れて置きますと非常に發汗します、次に患者を攝氏の三十二三度の湯の中に入れて、身躰に付て居る泥を洗ひ落して後ち、静に寝かせれば宜しう御座います、此砂浴及び「モール」浴抔は共に手浴足浴抔にも用ゐます、

●蒸氣浴と申ますのは、蒸氣を満たした部屋の中に患

者を三十分間以上入れて置きますか、或は又箱の中に患者を入れて頸から上を箱から出して、此中に蒸氣を通じても宜しう御座います、

●熱氣浴と申ますのは、蒸氣浴と同じ様で、只だ蒸氣の代りに部屋の中の空氣を暖めて、此中に患者を十分間から三十分間も入れて置きますと非常に發汗します、併し蒸氣浴にせよ熱氣浴にせよ、仕掛が頗る大袈裟で御座いますから、我國今日の程度では、病院の様な所でなければ、實行する事が出來ません、凡て發汗療法を施した後ちには、患者の身躰を手拭て拭ふて、靜に休ませる事と、患者を急に冷い空氣にあてない様にする事を忘れては不可ません、

●冷水療法

冷水療法と申ます内にも色々御座いますが、其の最も簡單なのは、一分間から五分間位患者の身躰全躰か、或は又胴だけを、冷水で絞つた手拭で拭ふのであります、もう少し度の強いのは、此を冷水灌漑法と申まして、全身或は一部分に冷水を濺ぐのであります、扨て此二つの内で身躰を拭ふ方即ち、

●冷水摩擦法には二た通り御座いまして、一つは攝氏の十五度位な冷水で「タオル」(西洋手拭)或は之が手許になくば、日本の手拭を二枚位合せたものを絞つて、之で二分間から五分間位摩擦すればよいので御座います、尚ほ一つの方は患者を裸にして、之を上に述べた温度の水て絞つた大きな布片で包み、其上から手で五分間から十分間位摩擦すればよいので御座います、凡て冷水摩擦を施した跡では直ぐ乾いた手拭で身躰を拭ふた後ち、靜に寢かせればよいので御座います、

●次に冷水纒絡法と申ますのは、前に述べました濕温發汗法と同じ様にすればよいので御座いますが、只だ之ては湯の代りに攝氏の十五度から二十度位な水を用ゐ、時間も亦五分間から十分間位で充分で御座います、

●冷水灌漑法と申ますのは、讀んで字の如く水を身躰に濺ぐので御座いますが、水の温度は大人であれ

は攝氏二十度以上小兒であれば二十五度以上のを用ゐます、決してこれ以下の溫度の水を灌いては不可ません、灌漑法を行ひます前には、先づ患者の耳に綿を詰めて、水の這入らぬ用心をなしてから、患者を裸にして、バケツなり桶なりに入れた冷水を、脊中から數回灌げばよいので御座います、灌漑法の一種て、

●冷水噴雨浴と申ますのが御坐います、此は水を雨の樣にして灌ぎ掛けるので御座いまして、此に用ゐます水は、攝氏の二十度から二十五度位の溫度のを用ゐます、之を如雨露の中に入れて高い所から灌ぎ掛けるので御座います、如雨露を高く上げれば上げる程強く働きます、時間は大凡そ一分間から五分間で、皮膚が赤く爲てチク〳〵する樣になれば止めなければなりません、此浴法は全身にも用ゐれば、又身体の一部分にも用ゐます、又病院などでは如雨露杯を用ゐずに、色々と便利な裝置を用ゐて居ります、是れて浴法は終りましたから、之から外科の看護法に移ります、



內外實用料理

横井たま子

●三國取合卓子料理

●小菜

第一　鮟鱇の味噌汁　日本

第二　手絲雞　支那

第三　燒牛　西洋

第四　牡蠣飯　日本

第五　山藥とろゝ三杯酢　日本

●點心

一　まんぢう

●煎茶

●果物、甘寒

第一　鮟鱇の味噌汁

●鮟鱇は時期のもの俗につるし切とて大方魚店に見當るものなり味噌は白味噌又は仙臺味噌をよしとす常の如く汁を仕立鮟鱇を小さく切り獨活を亂切りにして共に煮るなり吸口には款冬の臺をきざみ碗盛にして卓に上す

第二　手絲雞

雞の胸の肉に鹽を加へ湯蒸として絲の如く裂き皿に盛りてゆで雞卵の黄身を裏ごしにて掛るなり

第三　燒牛

●上肉の大切を一分位にうすく切り鹽をふりかけ中がわにのみ麥の粉をふり胡椒又はからしをぬり卷き糸にて一寸結びフライ鍋に製油を沸立箸にて廻しながら燒なり之を三つ位皿に盛りて出す

第四　牡蠣めし

●かきめしは飯を柔く炊くを可とす、又鹽かまに加減すへし、牡蠣は生のまゝにて飯の沸え立つ時に釜に入れ、飯櫃に移す時にそつと搔き交ぜるなり、而して食する時淡醬油のすまし汁(鰹をだし汁)を掛け香料を載せて食ふなり、香料は大根おろしと揉み海苔とを用ふ

但し汁は水さし樣の器に溫き汁を入て卓に上し香料は鉢に盛りて適宜に掛ける也

第五　山藥とろゝ

●山藥を水にてよく洗ひ皮をむき大根おろしにておろし擂鉢にてよく擂り玉子を入(四人前のいもに大ぬは一ッの割にてよろし)又よく擂交だし汁に少し入三杯酢を入てよく擂交常のとろゝよりも少しこくなし其中へ貝のはしらを入交深き鉢に入名々に出す

●點心まんぢう

●饅頭に玉子の黄身をつけて胡麻の油にて揚るなり皿に盛り砂糖蜜をかけて溫きうちに卓に上す

煎茶は前號に示す如し

家庭訓

●主婦の心得

一家の衛生に注意する主婦はよく家を和樂ならしめ又よく家を富ます然らざるものは屢々不慮の疾病を醸し一家をして衰亡に瀕せしめん

●灸點と鍼按摩（つゝき）

灸點も療治法にしては、大變に宜い我々も大變に宜しい事と思ふから、場合に依ては人に勸める事もありますが、併し素人考へて無暗にするのは燒傷をして放ッて置くと同じで、其傷に空氣中の穢いものが這入つて、思はぬ害を惹き起します。場合によると足を棄てゝ仕まはなければならん樣なことがあります是れは灸をして傷が出きた時は繃帶を掛けて置くならば宜しいが、やみたら燒傷させてそれきりで放つて置くと大變に害になります、それゆへ民間の治療法も遣りやうが宜ければ結構ですが、惡い時は大變に害を起します。それ故是は全躰から見ては惡い事では無いが、世の中の人が病氣だから鍼をうたうと、素人考へでやるのは大變に惡いから、第一に醫者に診て貰つて、此病氣には鍼を打ッても宜い、併し打つには斯うすると好いと云ふやうに醫師の考へからするものなれば惡い處では無い大變に良いと思ひます。併し前にも申す如く素人考へては大變に惡いと思ひます。

●賣藥

次に賣藥……此賣藥と云ふものは、世界中尋ねても日本程賣藥の多い處はなからうと思ひますが此賣藥を、良いとか惡ろいとか論ずる段になると、面倒て御座いますから、さう深くは申しませんが、賣藥も場合に依てはよく利くものである、下劑の賣藥がありますれば、それを飲めば必らず下だる、熱冷しと云ふ賣藥があれば、熱の出た時にそれを服用すれば、必ず熱が冷める、唯だ一つ二つに限らず、總じて賣

藥と云ふものは、能く利くものであると云ふ事は明かで若し賣藥が水の如きものであつたなら却て害は無いが、賣藥は能く利くものであれば、矢鱈に病人に用ひては大變に惡いと思ひます。何故かなれば、病氣は千種萬別で。千も萬も有る、又同じ病氣でも時々刻々に病氣の容躰と云ふものは違ふもので有るそれだから、必らず最初に醫師が此病氣は何病であると云ふとを診て、此病氣には之を飲ますれば好いと云ふ事を篤くと見た上て、相當の藥を與へ、容躰の違ふに因つて藥の調劑も違へて參りますが賣藥と云ふものは何時まで經つても同じ分量の藥だから、一つ藥を色々容躰の違ふ病氣に用ゐたならば大變に惡い結果が出て來るに相違ない。又通じがないから下劑を飲すと云ふは素人の早考へてありますが通じが無いから賣藥者から買つて來て飲むのは、成程時に依るとそれて通じが付く事もある、けれども獨りの人には付いても、他の人はどうしても通じが付かずして却て苦しくなるとがあります。それは何故かと云ふに便通の無のはお腹の中の消化が惡くつて、排泄物を躰外に出す力の無い時は通じが無いし、又は通じの付く管に何かつかへて居つて管が狹くなつた時も通じが無い、一言に通じが無いと言ふても其便秘する譯は一樣では無い、いろ／＼理由があります、若し穴が塞がつてそれが爲め通しが無い時に、上から下劑を以て幾ら通じを付けやうと思つても、出るものではない、通じを付ける處の藥を用ゐた爲めに却て非常に苦みを增すとがありますから消化が惡い爲め便通が無いか、或は管が塞がつて居る爲めに通じが無いのかと云ふ事を能く診て貰つて下が塞つて通じが無いのならば開けて貰うが宜しいさう云ふやうに見極めが付いたならば藥を買つて來て飲んでも宜しいが、只無暗に買藥を飲んだなら非常な弊害が有るかも知れない。世の中の賣藥者が病人を診て、お前の病氣は斯う／＼云ふ病氣であるとか、或はお前の通しの無いのは、下が塞がつて居る故であるとか、云ふ事を見極める力があれば宜しいか、世

の中の賣藥者は病氣を見定める程の力は無い、よし有つても賣藥者が病人の脉を取つたら、それこそ法律の許さぬ處でありますから如何に力が有つても之を爲したならば法律に背いた罪人てあります。故に賣藥は大變能く利くけれとも素人考へば買藥をしては時に依て幸ひに能い事もあるけれとも、又害も有ることがありますから先つそれより醫者が澤山あるから其醫者に就て藥を飲んだ方が所謂一文おしみの百損でない、身体程大切なものはないのですから、猥りに賣藥抔に委ねて置いてときを遲らして取りかへしのならぬやうにしてからは、致し方はありませんから、なんても早く醫者に見せるやうにするのが安全であります。若しも世の中にかゝる事を信用して買藥のみにて治そうと思ふものがあつたならば能く前に申上げた譯を御說明なすつて、止めて遣なければなりませぬ。賣藥のことは此位にして置きませう。

●應急手當

本記事は東京府師範學校附屬小學校にて査定し校醫井關圭三氏の校閲せられたる者なりといふ學校のみならず個人の注意にも必用なれば茲に掲げぬ

一、負傷して出血したる時の手當

い。簡單なる切り疵の時は、ゴム絆瘡膏を貼付すべし、若し稍大なる疵の時には其上を繃帶すべし

ろ。或る局部に負傷して出血したるときは石炭酸水(五十倍)を以て清潔に洗滌し、昇汞がーぜを其疵口に當て、脱脂綿及油紙を以て、其上を覆ひ、繃帶すべし、若し、其疵の大にして、出血甚しき時は、局部を緊縮して、一時血液の循環を絕つか、又は其疵所を壓迫すべし。

二、卒倒又は氣絶したる時の手當

い。脳充血にて卒倒したる者は、其顔面赤色を帶ぶるを以て、知るを得べし、此の時には、枕を高

くして、安靜に横臥せしめ、冷水又は氷を以て、頭腦を冷却すべし、倘出來得べくんば、足部に芥子泥を貼すべし。

ろ、腦貧血にて卒倒したる者は、其顏面蒼白色を帶ぶるを以て知るを得べし、此の時には、頭部を低くして、安靜に横臥せしめ、エーテル精七八滴(小兒)乃至二三十滴(大人)を水に割りて、服用せしむべし。

は。駈足をなして卒倒したる時には、エーテル精七八滴(小兒)乃至二三十滴(大人)を服用せしめ、尚、心臟を檢して、其鼓動甚しく劇しき時は之を冷すべし。

に。器械體操をなして、墜落するか、或は、其他の場合に於て氣絕したる時は、エーテル精十滴乃至十五滴を水に割りて、服用せしむべし、而して尚復活せざる時は、人工呼吸を施すべし。

三、吐瀉したる時の手當

い。通常心地惡しくなりて、吐瀉せし時は、「コロダイン」十滴乃至十五滴を水に割りて、服用せしむべし、但、吐瀉にして苦き水を吐くが如き場合には、重曹に苦味チンキを加用せしむるを可とす。

ろ。頭腦等を打撲せし結果、交感作用によりて吐きたる時は、其局部を冷却すべし。

四、腹痛又は下痢したる時の手當

腹痛又は下痢を起したる時は、「コロダイン」十滴乃至十五滴を水に割りて飲ましむるか、又は腹部を溫包すべし。

五、火傷したる時の手當

火傷したる時は、石炭酸オレーフ油(百倍)を脫脂かーゼに浸して、其局部に當て、脫脂綿を覆ひて繃帶すべし。

六、擦過傷をなしたる時の手當

擦過傷をなしたる時は、石炭酸水(五十倍)にて、淸潔に洗滌し絆創膏を貼付すべし。

七、踏貫をなしたる時の手當

踏貫をなしたる時は、直に其物を抜き取り、石炭酸水(五十倍)にて洗滌し、昇汞ガーゼを貼し、繃帯すべし。

八、眼結膜、口唇及口中を傷けたる時の手當

眼結膜、口唇、又は口中に負傷して、出血したる時は、硼酸液(五十倍)を脱脂綿或は脱脂ガーゼに浸して洗滌し、又は含嗽せしむべし

九、衄血を起したる時の手當

衄血を起したる場合には、鼻孔に脱脂綿を塡塞して、仰臥せしめ、鼻部を冷却すべし

十、歯の痛みし時の手當

歯痛を起したる時は、「コロダイン」を脱脂綿に浸して、其局部に當つべし。

十一、毒虫に刺されたる時の手當

毒虫に刺されたる時は、「アンモニア」水を塗布すべし。

十二、局部を打撲せし時の手當

い。眼を撲ちて眼瞼腫脹、充血、又欝血せし時は、硼酸液(五十倍)を脱脂ガーゼ、或は脱脂綿に浸して洗ふべし、若し其打撲の甚しき時は、硼酸液を脱脂ガーゼに浸し、脱脂綿を覆ひて、繃帯すへし。

ろ。鉢合せ又は墜落して、或る局部を打撲せし時は、石炭酸水(五十倍)又は硼酸液(五十倍)を脱脂ガーゼに浸して、其局部に貼し、繃帯すべし。

十三、頭痛又は關節の痛みし時の手當

頭痛又は關節の痛みし時には、樟腦精を塗布すべし。

十四、消毒

い。吐瀉物は、二十倍の石炭酸水を以て消毒し、後焼棄すべし、其塲所は仝液を以て清拭し、後撒布し置くべし。

ろ。「トラホーム」其他傳染性病所に觸れたる時は、昇汞セーゼ又は脱脂を以て、叮嚀に拭ひ、後石炭酸水(五十倍)にて消毒すべし。

附　錄

備付くべき薬品

一　石炭酸　　二　苦味チンキ
三　沃土チンキ　　四　アンモニア水
五　カンプラチンキ　　六　百倍炭酸オレーフ油
七　重曹　　八　エーテル精
九　コロダイン　　十　硼酸
十一　ゴム絆創膏

其他

一　繃帯　　二　昇汞ガーゼ
三　脱脂ガーゼ　　二　脱脂綿
五　油紙

中外彙報

●アドルナリン（止血劑）に就て

近世の大發明として方今歐米の醫學社會に嘖々稱賛の聲高きアドルナリン（止血劑）は實に我工學博士高峰譲吉氏の多年研鑽攻究に依ッて成功したるものにして博士の之に就て語る所左の如しと中央新聞より轉載すること左の如し

因に記す博士は嘉永五年十一月加賀金澤に生れ十二歳の時藩の拔擢に依り長崎留學を命ぜられ轉じて大阪醫學校に入り明治七年工部大學第一回の生徒として入校し螢雪多年明治十二年十一月業を終へ英國留學を命ぜられ同十四年歸朝農商務省技師となり同十七年米國ニユーオリンス萬國博覽會事務官を命ぜられ同廿年民間に降り人造肥料會社を起し益田孝氏と共に一年間世界周遊歸朝後工學博士の學位を受け同廿三年十月渡米化學の研鑽に從事し遂に消化醗酵素タカヂ、アスターゼ及副腎中の血壓增進成分アドリナリンの發明を爲し絶大の名聲を荷ふに至れり

夫人は名はカロリン（三十六）千八百八十八年博士に嫁し男子二人を擧げ長を譲吉（十三）次をエベン（十一）と呼ぶ、夫人の父はエベン、ヘッチと云ひ南北戰爭の際南軍の將校として功勞ありし人にて今休職大佐たり、姉妹三人あり姉をリズイー、アッキンソンと云ひセントルイス博覧會事務官アッキンソン氏に嫁せり、妹マリー、ジョージは單税論を以て有名なる經濟學者にして第一回紐育市長選擧の候補を爭ひしヘンリー、ジョージ氏の息に嫁せり、次妹モルモアー、ヘッチ孃（二十一）は今博士夫妻と共に帝國ホテルに滯在しつゝあり

●重なる點は收縮性

アドルナリンの治療上の効果はドウかと云ふに却々効用が廣いので御座いまして、其主もなる點は收縮性で單に粘膜から脈管に觸れる樣に應用すれば忽

ち脉管は縮まつて仕舞ひ薄い溶液でも一滴眼中に入るれば赤くなりました眼も見て居る間に白くなつて仕舞ひます

又た血を出さずに手術を行ふことが出來ます、夫から又出血の多い場合には之を塗り脉管が破裂したならば血の出る所に附ければ血止めになります、若し膀胱の出血などに之を其場所に當てることが出來ますれば脉管が收縮して良効を奏する譯です就中眼、鼻、耳、咽喉などの專門の方には輕便なる一の材料でムいます

●聲の嗄れたのを治す

且つ總ての焮衝に大變に宜い、例へば咽喉が腫れて居る處に塗れば直に癒ります、私がバッファローに居りました時に、友人ドクトル、マヤーと云ふ人、是は咽喉の專門醫ですが此人の話に依れば氏が一日醫學會に行く途中宿屋にて晝食をして居ますと一寸來て呉れと云ふものがあるので行つて見ますると——競賣をする商人が紐育から來て居る男なるが前夜からして聲が嗄れて仕舞つてサッパリ聲が出ないからドゥかして癒して呉れと云ふことでありましたソコで其の部分に是を附けました處が、非常に能く効いて其男は差支無く競賣することが出來たと云ふことです、併し是等の事は私の手で行つたことでは無く、只評判を申上げるに過ぎないのです

●心臟病にも非常の効

又心臟の脉管を收縮させるから心臟病にも非常の効を奏します、即ち脉管瓣膜から攝取させて心臟に働きを及ぼすのでムいます、又大なる手術を行ふに此品を用ゆる時には、危急を防ぐことが出來る

●寫眞に用ゐらる

單に醫學上の應用のみならず他にも一二應用の點がある、乃ち此藥は酸素を吸ふ力が大變に強いのですから寫眞に使て見ましたが、良好の結果でした併し寫眞に付ては他に尚ほ良好のものがあるのですから強て之を應用するにも及びませんが兎に角一の化學的の作用を示すには十分であると思ふ

●牛の副腎から製造

次に化學的の成分に就ては化學者の本分として研究せなければならむと思ひます、今日迄は此成分は牛の副腎から製造して居る、夫で牛の副腎千斤からして漸く一斤位しか結晶躰は取れませぬ即ち一斤取るに千斤の副腎を買入れなければならない、大きな牛の副腎はどの位の目方と云ふに一つに付十グラムか十五グラムしかありませぬから牛一疋に付て二十グラムより三十グラムしか材料が無い、故に一パウンドの副腎を得やうと云ふには、牛が二十疋以上を要する、随つて其材料の質と云ふものは副生物ではあるが、何萬匹も一遍には取れませぬから氷室に入れて凍らして置かなければならぬ樣な譯で、材料が拂底であるから却々な價になります

●世界第一高價の藥

今の所でも隨分高い藥もありますがアドリナリン程高價の藥は無からうと思ます、亞米利加での價が一ゲレーン一弗であります即ち目方一封度が七千弗日本の金に直して一斤一萬四千圓と云ふ高價です、是は非常に高い樣に御思召すでせうが、實用上から云へば非常に廉いものです何故なれば此一ゲレインを千倍にすると二オンスになり、其二オンスが一弗に當ります、ソコで眼の痛み咽喉の腫れ等の患者に用ゐますれば忽ち利きまして彼のお醫者樣は上手だと云はれるやうになります

●人工で出來得るか

其樣な高價な品であるから化學上ドウか人工で出來ないものかと云ふのは通例人情で厶います、併し人工で行らうと云ふには只矢鱈に合せて見た所が、決して出來るものではない、夫々見當を附けて行かなければなりませぬ、其見當を立てるに付て最も必要なるは炭素が幾らあるか、水素が幾らあるか、酸素が幾らあるかと云ふ事を知るのであります、精製の出來る丈け精製して今度は化學者が通常行ひまするアルシメーターハイセスの方法で分析すると$C_9H_{13}NO_3$斯樣な成分の割合を有ツて居る品物です、化學

上で言へば最も單純の成分を有ッて居るのです、其處で此次には此炭素と水素との化合の割合はドウ云ふ種屬が集つて、是れ丈けの化合を成したものかと云ふに、是れ即ち化學者が十分に研究しなければならぬ點で、其研究を十分積めば人工で此物が出來ないとも限らないが、ドウしたら人工で出來るか何だソコ迄は私の研究の及ばぬ所でムいます、併し私の考では斯う云ふとはドウも一人で握り潰すべき性質のものでない、私は今日此發見丈けでも幸福でありますから、私の行ッた事を世間に知らして、他の研究家の材料に致したいと云ふ積りでムいます

●其の製造法

次に製造法に付き簡單に御話を致しませう先刻御話した單に牛の副腎の脂肪を除けて仕舞ひ肉を消化す器械に掛ますと細かに刻まれて出て來ます、夫を罐の中に入れて、水を入てソロ〱と外方から蒸氣で温め、佛臘點に近い溫度で二日三日煮ます、其處で先刻御話した通り大變に酸化し易いものですから其儘で置くと空氣から酸素を吸て仕舞ひますから其上に炭酸瓦斯を通します通常は脂肪が上に浮きまして恰もスープを拵へる樣な譯で脂の皮が張りますから罐の中に炭酸瓦斯を入れる樣にして置けば大丈夫です、兎に角酸素を吸收しない樣にして副腎のスープを拵へるスープを拵へた所で之を漉して滓を去り其スープの汁を電氣の罐に入れて低い溫度で煮詰め宜い加減に強くなつた所に、アルコールを入れると沈澱します、其沈澱した所で、夫を漉して其汁をモウ一遍電氣で適當に煮詰めた所で夫々鹽化安母尼謨を加へて置いて、又之に苛性アルカリを加へ、而して一ト晩位も置きまして翌朝見ますと場合に由ては直ぐにも出來ます、白つぽい樣な色の惡い下等の砂糖の樣なものが結晶して來ます、其品物を取つて調べて見れば前に御話した如く餘程著るしい生理的の働きを有つて居ります、其結晶を又水に溶かし酸に溶かして略ぼ同樣の方法にて沈澱させ一二度沈澱を繰返せば純粹なるアドリナリンが出來るのでありま

す、鹽化安母尼謨の代り安母尼亞を使ふても出來ます、結局其樣にして二三遍製造を繰返して出來たるもの丶一分を千分に溶解した溶液が驚く可き力を有つて居るのであります

●二日間止みなしの嚏

然るに之ては餘り強過ぎるです、初め私が是を拵へた時分に或る咽喉鼻などの專門家に少し許り標本を贈つた所が、夫を水に入れて病人の鼻の中に入れましたが、病人は二日間止み無しに嚏をしたと云ふ話で其先生から彼なアドリナリンならばドウもならぬと小言を聞きました、實際使ふには之を鹽化鹽類にして使ひます硫酸でも又外の鹽類でも宜しい、此溶液は一體は無色でなければならぬ、又目の中に入れても害のない樣に殺菌法を施す際に溫度が上ると、酸化し易いから餘程注意を要します

●固形アドリナリン

夫から溶液許りでは場合に由ては不都合なとがありまして運搬の便利の宜い樣にと云ふ注文がありましたからカフセルにも致しました、是には鹽化物では宜くありませぬゆゑ、酒石酸鹽類とアドリナリンを適度の分量に乾涸させたのであります、其固形物を溶せば是と同じ樣な溶液が出來るのであります(完)

●癩病の奇藥

東京朝日新聞紙上布哇だより中左の記事あり曰く布哇の一名物とも稱せらるゝ同病に對しては是迄種々投藥治療に手を盡したるも今に著しき効果を見ざることなるが先年南米ヴエネヂユエラより同病の特効藥なりとて送り來りしチユア／＼と稱する一種の灌木を當地農業實驗場にて試植し其樹の汁を採りて越幾斯となし之を某土人の同病者に試みたるに初めは劇症の下痢を起したるも漸次其効驗を現はし已に腐れかゝりし相貌は全く別人の如く快愈したるを以て他の患者にも試みたるに何れも其功を奏しその地方の評判となり居れりと右に就ては尚一層專門家の研究望ましきことなり

●痲剌列亞豫防試驗成績

基隆守備第一大隊にては「マラリヤ」と蚊の關係を實驗する爲め防蚊營舍を設け中隊を二分し其半即ち百十二名を入れ昨年九月より實驗に着手し去月廿八日全く結了せりと其結果を聞くに其營舍にありしものは六ケ月に至るも一名の患者を發見せず之に反し他の半中隊の百六名は六ケ月間に三十二名の患者を出したるを見ても如何に蚊を防ぐことによりて「マラリヤ」を豫防し得べきを知れり尚臺北衛戍病院にては右の兩兵士に付血液檢査を行ひしに百六名の兵士中には現在マラリヤに罹らざるものといへども何れも其病毒に感じ居る徴候を顯はせりといふ然るに百十二名中には一人として血液變化し尙兩兵士を一列に並立せしめて見るときは一見區別し得べき迄に顏色に差ありといふ西洋諸國にても屢々實驗を企てたれども未だ充分の成績を得ること能はざりしに今回幸ひに其實驗を成功したるは我醫學上の榮譽と云ふべきなり

●肺病と空氣療法　肺病に對して、空氣療法の最も有効なるは、近時歐米醫海の輿論となりたる所なるが、米國マサチユーセッツ州立病院の報告によれば、昨年中同病院に於て、收容したる肺病患者三百九十九人中、空氣療法によりて、全快したる者、六割七分の多きに達し、死亡者僅かに一人なりしと云ふ、又以て其效果の顯著を見るに足るべし

●結核豫防會議　結核豫防會議は再昨年始めて伯林に開かれ爾來列國其必要を感じて東京醫科大學其他の醫士は既に政府へ請願する所ありしが右は來る四月東京に催す聯合醫學會の第一事業として活動を始むる由

●比律賓の癩病患者　マニラ市衛生局に於て比律賓島内癩病患者の數を調査せん爲め島内各州より報告を徴したるに既に報告濟みの村落三百二個村にして其癩病患者は實に二千二百五十七人内男千三百八十五人女七百三十一人其他十二歲未滿の女兒九十四人同男兒四十七人なりといふ尙ほ報告未濟の村落

は六百九十八箇村あるを以て前記の割合を以て推すときは全島の癩病患者は七千五百人以上の多數に達すべしといふ右に付き衛生局は之が收容地を定めん爲め目下踏査中なりと

●血清藥院及び研究所の擴張　血清藥院及び傳染病研究所事業擴張の爲め血清藥院は一万七千餘圓傳染病研究所は六千餘圓の增額を要求して議會の協賛を得たるを以て血清藥院に於ては大に實扶垤利亞血清製造高を增加して全國の需用に不足なからしめ兼ねて破傷風の血清製造高をも增加すべく又傳染病研究所に於ては新に各種癌腫の病源に對する細菌學上の研究脚氣病は一種の傳染病なりとの學說に對し其病源に關する細菌上の研究及び梅毒に對する研究をなす豫定なりと云ふ

●禿頭病　再發したる禿頭病は其患者概ね婦女にて傳染益す熾んなり之は髮結道具共用に原因するもの多と云へば注意せらるべし

●痲疹病　先頃より風邪に冒されし結果痲疹を併發するもの多し之も用心せらるべし

●深川の湧泉　深川諸町十三番地(日本橋橘町四の十六山鄕保三郎所有)なる堀井戸より近頃溫泉の湧出するとの噂高く去月廿四日同區役所より東京市役所へ其試驗を依賴し來りたるを以て市衛生試驗所長藥學士八木長恭氏は廿五日實地を撿分し溫水を汲取り來りたるが堀井戸は深さ一丈二尺水七尺五寸程にて溫水湧出口は氣溫攝氏十二度の時四十七度を有し湧口多數にて湧出量は計り難く又た稀に氣泡を發するが如くなるも其量甚だ少なく井邊に下水ありて淸潔ならざる由八木氏が分析試驗は未だ完結せざるも少量なる重炭酸石灰、重炭酸亞酸化鐵、硫酸石灰、クロールナトリユーム等を含有するの反應ありて其配合最も工合宜しく或は偶然此適合を得たるものかは知れず又實驗はせざるも東隣に在る湯屋にては鐵管の敷設後廢物となせし井中の水も溫氣を帶び居れりと

●長崎のペスト　大分縣大分郡駄原村百三十番地の

三浦角平妻ギン（六十）なるもの本月五日基隆發の瀛船臺中丸に乘じ歸國の途中同六日夜右の前膊に腫物生じたることを氣付き翌七日長崎着後直に上陸同市の醫師に診察を乞ひ服藥の後直ちに長崎病院に入りて診察を經たる結果疑似ペストなること判明せしを以て市立傳染病院に收容せられしが患者の言ふ處に據れば基隆滯在中居室の二階より斃鼠墜落したることありと云ふ基隆にて感染せしものと認められたり

●長崎のペスト健康診斷　臺中丸にてペスト患者と同船せし乘客は各地へ上陸諸方へ離散せし爲め病毒傳播の恐れあるより其筋にては同船に備へある船客名簿に就き乘客の所在を探り直ちに健康診斷を施行する筈なるが去十三日愛知縣より『臺中丸乘客一名歸宅直に撿診したるに異狀なし』との電報内務省に達したる由

●東京市の施療病院　東京市にては貧民の爲め施療病院を設立する事となり其の一ヶ年の費額を七萬五千圓として三十五年度豫算中に加へ市參事會を經て市會に提出すといふ、美擧と云ふべきなり原案の早く可決せられんことを望む

●露國の幼兒死亡率大なり　露國某地方廳の調査に徵するに多くの州にては一年兒の死亡率は四五割を占め處に據ては遠く之よりも登るものあり醫師の報告に據れば此の原因は主として農民の無智なると母親の田野に耕すが爲に幼兒の養育を怠るとに基き倘子供附の乳母を雇ふて子を養ふも其の一原因をなし乳母の子は自然の結果として人工法を以て之を養ふことゝなるが故に死亡するもの隨て多しとなり但し此の點に於ては回敎徒の露人中には子は實の親必ず之を育乳せざるべからざる法律あるが故に幼兒の死亡も割合に少く例へば某州に見るに回敎徒の幼兒死亡率は一割四分餘に當るも基督敎徒のは三割四分餘を占めたり

因に記す佛國にては數十年來死亡の出産より多きを以て本年代議院にては特別委員を設けて其の原因を調査せしむることゝし右委員會は一月廿日第一會を

開きたるが其の時內閣議長ワルデック、ルッソー氏は演說して右調査の結果は追て法律として發布したき旨を說きたりといふ

●市內の傳染病　本年一月より三月十四日に至る市內八種傳染病は赤痢十六、痘瘡一、猩紅熱六、腸窒扶斯百十五、此の內神田區二十を最多とし麹町區十三、本鄕區十二、日本橋、本所之に亞ぎ次に實布的里亞三百七十二此の內淺草區五十二を最多とし芝區四十七、下谷區三十四、神田、麹町、本所之に亞ぎ總計五百六にして之を昨年同期日間の總計に比し百二十九の增加なり而してペスト虎列剌、發疹窒扶私は皆無なり

●臺灣のペスト　去十三日臺北新患一人死亡五人同日鹽水鹽新患九人死亡一人本年初發より累計患者三百六十四人死亡二百九十二人なり

●神奈川縣の鵞口瘡　其筋への報告に依れば同縣下に於ける流行性鵞口瘡は目下全滅の姿なりと

●流行性感冒と痲疹　警視廳の調査に係る同管內に於ける去二月中に發生せる流行性感冒患者概數は八千九百五十九人內死亡六十四人にして最も猖獗を極めたるは芝、神田、京橋の三警察管內なるが本月に入りて稍々減少せし模樣なりと又痲疹患者は千廿七人內死亡六人にて最も甚しかりしは神田區にして二百卅七人之れに次て淺草區百廿七人芝區百四十八人日本橋區百十三人等なるが本月に入りて益々流行の徵ありといふ

●九州大學と福岡病院　九州醫科大學の豫算既に議會を通過せしに付き福岡縣は豫約の寄附金二十五萬圓中十二萬五千圓を本年支出し殘額は明々後兩年度に支出する筈にて同縣會の議に上ぼり福岡市より寄附の敷地二萬五千坪は最早買收濟となりたれば福岡病院を大學病院に引移す件に就て今回文部省へ交涉中なれば不日決定すべしと云ふ

質疑欄

問　此頃高崎地方には「インフルエンザ」流行致し候普通の感冒と異なること及注意等を御伺申度候

質問者　高崎　一會員

答解者　本會　幹事員

答　仰の如く新聞紙上にても御地に「インフルエンザ」流行して女學校生徒の大部同病に罹りたることも一見いたし候此流行性感冒即ち「インフルエンザ」は随分古くより流行するものにて西洋の歴史を見るに百八九十年程以前よりある病にて普通の感冒と違ふ處は大勢が一度に全じ病に罹り又熱が强くなり非常に身体の弱ること等が普通の感冒と違ふ處にて西洋にても日本にても是迄屢々流行せり此感冒は随分不愉快なる心持の惡しき病氣にてインフルエンザの原因となりて肺の焮衝、肋膜炎、精神病、其外リウマチス腸胃病等は後に殘りソレが爲めに生命にまでも關係する樣になり殊に老体（年齢六十歳以上）のお方が流行性感冒に罹かゝるゝときは中々重き病に陷り重症の肺の焮衝などに罹り遂に命を落すもの甚だ多し此病に罹るときは初めは普通の感冒の如く痰が出て鼻が出る位ひなるも頭痛嘔氣あり身体中疲れて手足殊に腰の部分痛み腰より下は恰もぬけそうになり立ッて居るも草臥れる位にて之れと同時に便通なく熱は四十度以上に登り豫后あしきものは前の如き餘病を起すに至る殊に此「インフルエンザ」は他の病氣と違ひ虎列剌、窒扶斯と同じく熱性の流行病なれば爲めに精神病の原因を爲すことあり元と人間の血は如何なるものか幾何あり蛋白質が何分有ると云ふことは定りおるに其釣合の變り來るときは身体の衰ひに爲る處の血に變動を來す然るに腦は血の働きの尤も大切なる處なれば之れが爲め腦の衰ひ惡くなり遂に精神に變動を起すことあり御承知の如く

酒にても飲み過ぎて頭に血の上るときは眩暈とか頭痛の爲す如く僅かにても血液の變動によりて腦は忽ちに變り溫順なる人も酒の爲めには亂暴の人となるが如き皆腦に變動を起せしが爲なりサレバ「インフルエンザ」に罹りたる以上は服藥も必要なれども餘程食物に注意せざるべからず但し熱の中々激しきものなれば牛肉を食べろの西洋料理を食べろのと云つても皆消化することは能はざれば消化の善ものを少しづゝ絶間なく用ゐるを肝要とす其好きものは鷄卵、牛乳、獸類鳥肉、野菜の柔らかきものを用ゐるをよしとす此病ひは後の疲るゝものなれば病中病後ともに專ら養生することと尤も必要に候也

質問者　會員　増岡せい子

問　私は結婚してより十年餘りに相成候へとも姙娠したることと無之友人の話しには診察を受けし後子宮を直す手段を爲し置くときは姙娠すとか申し候へとも事實に候や又姙娠せざる原因伺度候

答解者　本會幹事員

答　夫婦の情愛睦しく夫の方に申分なくして姙娠せずとすれば婦の體殊に生殖器に申分あるに相違なし大學にての婦人科外來に來る患者の中には質問者の多く子無きを患ひて診察を請ふもの少しとせず之を診察するに多くは內膜炎などの子宮病ありて之れに治療を加へたるに程なく姙娠したりとて禮狀を送り越す者多し左すれば質問者の如きは上手なる婦人科醫に診察を請ふてよく〳〵相談せらるべし

質問者　特別會員　たゝは子

問　夜中睡眠出來ず折角ねむらんとするも何となく物に驚かさるゝは如何なる故に候か

解答者　Dr. N. N.

答　多分神經衰弱症にかゝり居らるゝ事と存候左れば其原因となるべき苦勞や心配あれば之れに遠かることを謀ること急務なり次に可成頭を休める樣にし日々適當の運動を爲し食物には注意して不消化の者を廢し茶、コーヒー、酒の類は一切之を廢すべし

就眠前入浴、按摩、冷水摩擦等を試み寢室は空氣の流通をよくし夜分は間食せぬか宜し又たまに就眠出來ぬ位なれば就眠前一杯の砂糖湯を飲むも宜しもし以上の方法にて治癒せずんばよき醫者の診察を請ふて服藥せらるゝより他に法なく候要するに此御方はひどく心配性にて僅かの病氣にも僅かの出來事にも大に神經を腦まし所謂氣で氣を病みてます〱不快ならしむる樣なれば勤めて心配することを止め神經病專門の醫者(東京にては)醫學博士三浦謹之助君、醫學士山田鐵造氏等の診察を乞はるべし

質問者　佐賀の會員

問　結核性の腸カタールに罹りたるときは生命おぼつかなく候か或は養生の効によりては全快致するものに候か

答解者　Dr. N. N.

答　結核性の腸カタールは豫后面白くなし然し充分の治療を加ふれば病勢を減ずることは勿論全治せずとも限らず又醫者の診斷が間違ひ居る場合もあれば兎に角良醫にかゝることゝ醫者の命を奉して充分治療を加へることが第一と存候

東京、會員　宮　佐　子

問　私妹事昨年より肺病に罹り神保町の專門病院へ入院致し候へ共肺の病は大に快方に向ひ候へ共氣分少しも引立たゝず大に困却致し候へ共右の如きは如何なる藥品可にて候や伺上候

答解者　本會審事員

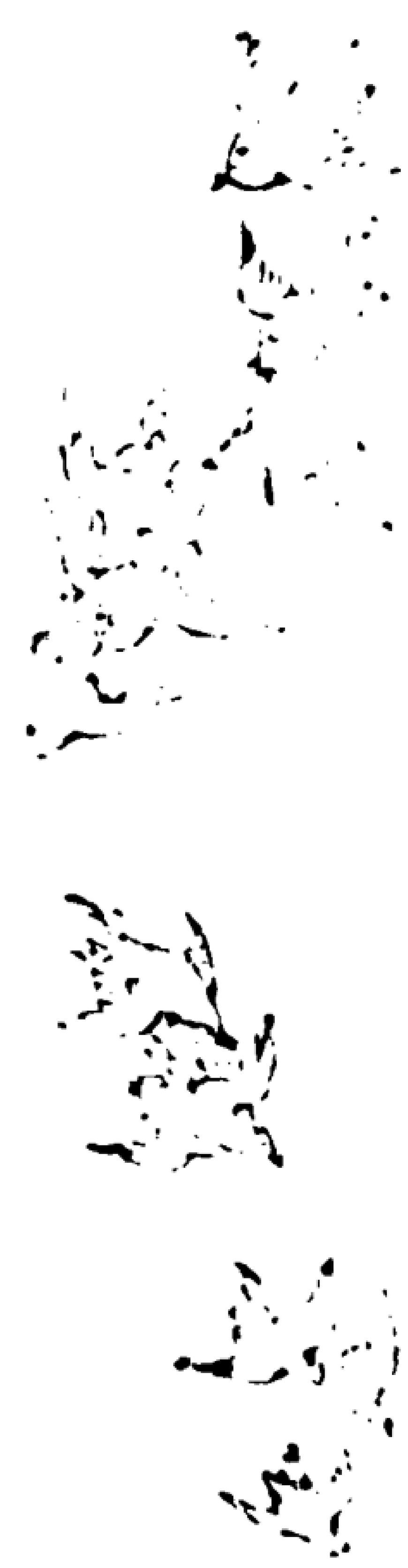
答　神保町の專門醫院へ御入院後御快方に向ひ候は全く治療の成績顯はれし事と存じ(實地診察の上ならでは御確答申兼候へども)總て結核性の病氣は中々容易く治癒するものに無之若し果して快方に向ひしとせば氣分の引立たゝぬことも病勢の衰ふるに從ひ自から治癒すべければよく醫師の命に從ひ療養せらるべし

質問者　肥前　一會員

問　フチシースとは肺結核腸結核共に申候か或は何れを申候か

答解者　本會　幹　事　員

答　フチーシスとは結核のことに候左すれば肺のフチーシスもあれば腸のフチーシスもある理に候



大日本婦人衞生會記事

●本會三月總會景況

三月一日第一土曜日午后一時より麹町區虎の門内東京女學館講堂に於て本會總會を開く一ヶ年間の事務及會計報告は別項の如く掲示して會員に示せり當日は醫學博士三宅秀君にも出席せられ家庭看護法に付き講演を開始せられたり次にミス、ヒユース女史には登山と云へる演題にて安井哲子通譯の勞を取られ登山は近世の婦人殊に近世の淑女に對する躰育的價値のあることと及び氏の登山せし實况より登山の準備等を詳細に演說せられ終りに二ツの希望を述べて曰く日本の婦人殊に貴婦人方は將來日本に向つて盡さるべきことも多々なるべきも必要なるものは何にかと云へば其一は高尚の教育を受けることゝ二にはよき慰みを得て躰力も同時に發達せしめさるべからず之を發成するは種々方法もあるべしといへども僅かの費用を以て僅かの時間に目的を達し得るは登山なり云々と述べられ次に會費增額の件に付議事を開きしが滿場異議なく原案に可決し左の如く規則の修正をなせり

本會規則第五條中終身會費十圓を**二十五圓**特別會費を**三拾錢以上**通常會費を**十五錢**と修正し**四月一日以降實施のこと**

右終りて當日は東京女學館教師ベンステッド孃の出席會員一同を招待せられて茶菓を勸められたり當日は雨天なりしかば總會の割合に出席も少かりしが役員には濱尾副會長、幹事鳩山春子、高木かう子、松平芳子、三浦敎子、評議員高橋孝子、吉武輝枝子の諸氏にして其他會員及女學生徒を合せ二百五十餘名なり

き

大日本婦人衛生會

收支決算報告(自明治三十四年三月 至仝 卅五年二月)

收入

一金貳千七百貳拾八圓七拾四錢九厘

內譯

金六百六拾九圓四十五錢四厘　前年度より越高
金千八百六十九圓六十三錢　會費
金百七拾圓拾貳錢　寄附金懇親會費廣告料
金拾九圓五十四錢五厘　預ケ金利子

支出

一金貳千五拾五圓六拾八錢四厘　本年度支出高

內譯

金四百拾五圓貳拾九錢　報酬雜給
金四圓九十錢　器具費
金千貳百貳圓貳拾九錢九厘　印刷費
金貳拾壹圓四十八錢　筆墨紙費
金四圓七十貳錢參厘　消耗費
金百貳拾四圓四拾參錢九厘　通信費
金百六拾八圓六十參錢　集金費
金百拾三圓九拾貳錢參厘　雜費

收支差引

一金六百七拾參圓六錢五厘　殘高

內譯

金五百圓　三井銀行預金
金四拾壹圓九拾四錢五厘　東京貯蓄銀行預金

以上

現在會員數調(明治三十五年二月二拾八日調)

總會員數　貳千貳百六拾四人

內譯

終身會員　五十五人　特別會員　百七十一人
贊成員　百八十一人　通常會員　一千三百五十六人

新潟縣會々員●終身會員五人○特別會員五十六人●通常會員九十人
●支會員五十四人●合計二百五人
●千葉支會々員●拾九人
●山形支會々員●特別會員十五人●通常會員四十八人●贊成員一人
●合計六十四人
●宇都宮支會々員通常會員九十三人贊成員四人●合計九十七人
●茨城支會員●終身會員一人○特別會員三十六人●贊成員三十一人
●通常會員六十八人●合計百十五人

以上

右報告候也

明治三十五年三月

私立大日本婦人衛生會

●會員數增加の對照

本會は會員諸氏の盡力により次第に增加し昨年度報告の總數は一千七百〇二人なりしに本年度二月二十八日迄の調査によれば二千二百六十四人となり一ヶ年間に增加すること五百六十二人の多きに達せり今之を細別すれば東京に於ける終身會員に四人を增し特別會員に三十七人を增し贊成員二十一人通常會員に六十三人地方會員に三百〇六人支會々員に百三十一人を增加するに至りたり尙本年も會員倍舊の助力を以て多數の會員を誘導せられんことを望む

宇都宮支會記事

●二月例會

二月九日宇都宮市なる高等女學校内に於て例會を開く出席會員三拾餘名午后一時より左の講演ありて午後五時散會せりといふ

一、人體内に於ける水の働き　波　講師

一、化學的實驗　匂坂貞吉

一、中氣の時と小兒の引き付けたる時の注意　醫學士　淺田講師

●山形支會記事

●三月例會

三月八日例會を山形縣廳裏通偕行社に於て開く高橋氏の傳染病特に肝臓に就ての講話ありて四時散會せりといふ

●茨城支會記事

●二月例會

二月十六日(第三日曜日)水戸市常磐公園好文亭に於て例會を開く波多野醫學士には例により普通看護法のつゞきを講演せられたりといふ

●在高崎會員の茶話會

群馬縣上野國高崎市に於ては本年一月以來續々本會

に入會せられ已に八十餘名の多數に達せしが頃日二三の會員發起者となり相互の面識かたく〱同地柳川町幼稚園に於て本月十五日茶話會を催し非常の盛會なりしと云ふ今其景況を聞くに同日午後一時前より會員續々來着互に面識の間に交情を溫め午後二時を報するや一同衣襟を正して君か代を三唱す次て左記諸氏の有益なる講演あり

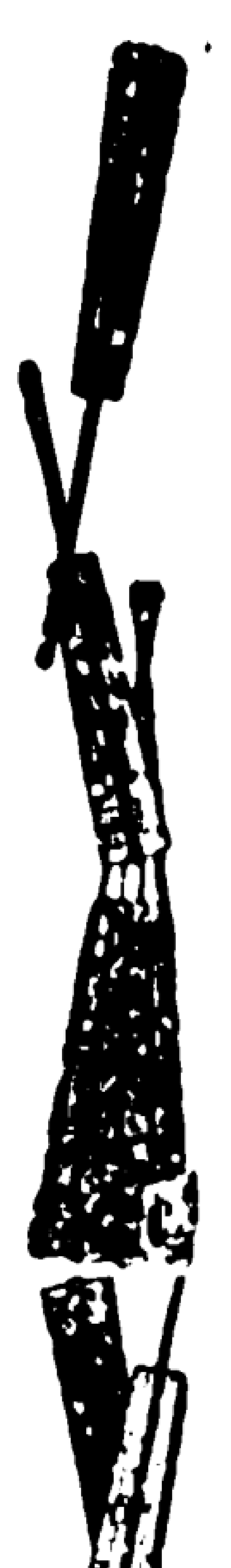
第一席幸　福　特別賛成員　星野傑光
第二席傳染病に就て　客　員　秋田聰太郎
第三席口の衛生　同　稻垣　眞
第四席會員諸姉に告ぐ　特別賛成員　横井忠國

此會集の事を聞知したる同地寫眞師大江某は美擧の好紀念として自ら乞ふて一同を採影したり演壇には梅花清香を放ち席上は主客新舊の別なく茶菓を周旋し談笑和氣藹々の間に次會の期日を約し午後五時前散會したりといふ

會員の出席者は左の如し(到着順)

大澤ふく子　清水喜代子　高橋やす子　宮岡むめ子
星野きよ子　横井昇子　井ノ口錦子　町田まつ子
福田あい子　稻垣壽々子　淺野あき子　岩田まさ子
大須やゑ子　財津いく子　土谷ひやく子　塚越まき子
根本てつ子　松本淼子　石井ひさ子　粟野まる子
古田友子　金子はな子　林磨智子　相川すか子
清水かれ子　水澤たか子　馬渡なか子　本多みさ子
久保村てる子　新里はる子　石田岩子　水谷すみ子
根門てい子　齋藤れう子　矢島たい子　奥きく子
深井さゑ子　茂木ぶん子　田中とも子　須藤まさ子
深井ちよ子　森山てる子　中原はるゑ子　小林のぶ子
深井せい子　原田つれ子　柳下まつ子　横尾ひさ子
因幡なほ子　金井いゑ子　小野はな子

特別賛成員星野傑光、同横井忠國、客員陸軍一等軍醫稻垣眞、同醫士秋田聰太郎、同醫士高草木又吉郎同陸軍二等藥劑官水谷梅次郎の諸氏其他家族同伴者として島瀬たま子外十數名出席し茶菓料の資として夫々金員を寄附せられ多額となりしを以て當日の實費を控除し剩餘は次會以後の費用に充つる事となしたり云々同地よりの報告に見へたり末頼母敷將來の隆盛期して待つべきなり



●左の諸氏は本會の爲め御盡力少からず玆に掲げ謝意を表す

●醫學士竹中成憲君

氏は青森病院長なり其繁劇なる職務に係はらず常に西書を取寄せ嶄新なる醫學を研究せられ著す所頗る多く肺病豫防法日本小内科學の如きは其尤も簡明なるものなり又最近の著書赤痢病學は實地治療上の益を受くること實に少なからざるものなり殊に本會の爲め每號誌上連載の如く有益なる草稿を續々寄送せらる其熱心なる本會の深く謝する處なり

●横井忠國君外諸氏

陸軍一等軍醫横井忠國君は本會特別贊成員なり君目下高崎にあり本會あるを聞かれし以來大に之を贊し婦人衛生の振否如何は國民躰力の良否如何に關し勇壯活潑の軍隊も其根元は婦人にあり婦人の衛生一日も忽かせにすべからずとなし爾來每號誌上連載の如く多數の會員を紹介せられ熱心に盡力中なり尚三等軍醫正星野傑光氏にも今回特別贊成員たることを承諾せられ共に大に本會を助成せらるべしといふ又高崎市尋常小學校長根本靜君には豫て同市に德望ある教育家なるが是又大に本會々員紹介の勞を取られ本誌上掲載の如く又多數の會員を誘導せられたり

●和田義質君

氏も又本會の特別贊成員たり武州八王子の人なり多年公共事業に盡力せられ本會贊助員としては日未だ淺しと雖も多數の會員を紹介せられ鑛毒事件の起るや本會の爲め代表視察せられんと迄申越され且來書に曰く元來迂生の衷腸御尋致候は餘の義に不在我が赤十字社の如きは殆んど七十八萬に近く且愛國婦人會も一萬人以上に成たる由然るに人生一日も欠くべからざるの本會にして少數なるは實に遺憾の極と考へ候より乍不及御盡力可申積に御座候且今回の出張(鑛毒地代表視察のこと)は本會へ御迷惑を相掛候義には決して無之自費を以て可致義に付右御了承相成度且視察の義參考上の必用のみならず本會擴張の一助にも可相成義と被存候より思立候義に付云々斯く

熱心に申越されしが本會は右視察上の義に付某技師出張の幸便に依托せし後の事なりしかば和田氏の意を充たさゞりしは誠に遺憾なりき

右に付和田氏より

岩をとほす力もぬけて餘寒かな　殘賀

●又同氏の本會の爲めおほくの人にすゝむる折

君か代にともなふ千代のいく藥
ふるなもとめぬ人や何なり

仙人もえかてにすくふいく藥
やすくもとむる君が御代かな

●又氏の潔白を表して

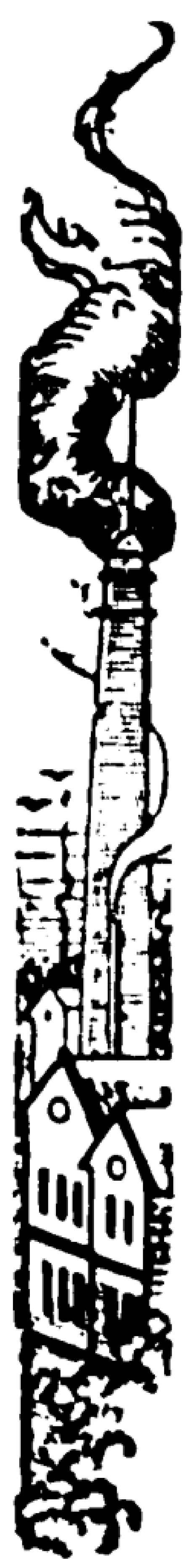
にごられはそこさへ見ゆる山の井の
水のこゝろはくみてこそしれ

●尙述懷一首

眞心のつらぬかぬこそ恨なれ
石に立矢もありときく世に

●松住臨太郎君

君も又本會の特別贊成員なり目下臺灣にあり氏の臺北に赴任せらるゝや本會擴張の事を以てす氏は資性温厚篤實にして記者の親友に係る爾來本會の爲め盡力少からず假令へ同地の會員四拾餘名に過ぎすと云へとも初めて同地に本會の氣脈を通ぜしは氏の與りて大に力ある處なり尙向後進んで同地會員田村まつ子外總員の盡力によります〳〵會員の誘導を圖らるべしといふ同地も又前途多望なりといふべし



●本會入會者

○牛込　增田せい子紹介

●牛込區榎町十三番地　通常會員　小山壽美子

○高崎　戸枝梅子紹介

●高崎市柳川町百二十七番地　通常會員　山越千代子

●仝　市柳川町百六十九番地　通常會員　篠原せき子

○高崎　特別贊成員橫井忠國君紹介

●高崎市四谷町三十一番地　通常會員　町田まつ子

●仝　市宮元町四十五番地　通常會員　三橋ひろ子

●仝　市龍見町九十三番地　通常會員　水谷靜子

●仝　市柳川町十六番地　通常會員　林滿智子

●仝　市柳川町百十八番地　通常會員　石田岩子

●仝　市柳川町五十六番地　通常會員　松本泰子

●仝　市嘉多町五十一番地　通常會員　綿貫もり子
●仝　市田町百四十五番地　通常會員　高草木かね子
●仝　市柳川町七十三番地　通常會員　高橋かひ子
●仝　市相生町四十四番地　通常會員　大山うら子
●仝　市鞘町十二番地　通常會員　秋山たつ子
●仝　市若松町十八番地　通常會員　佐藤龜尾子
●仝　市新町五十二番地　通常會員　矢島みね子
●仝　市宮元町十五番地　通常會員　岩田まさ子
●仝　上　通常會員　大須八重子
●仝　市宮元町十四番地　通常會員　財津いく子
●仝　市田町百番地　通常會員　住谷しず子
●仝　市中紺屋町三十五番地　通常會員　木戸のふ子
●仝　市嘉多町二十九番地　通常會員　吉田とし子
●仝　市柳川町九番地　通常會員　關良子
●仝　市龍見町九十六番地　通常會員　芳賀千代子
●仝　市龍見町九十三番地　通常會員　水谷澄子

○高崎　特別賛成員根本靜君紹介

●高崎市龍見町九番地　通常會員　齋藤れう子
●仝　市宮元町二十番地　通常會員　矢島たい子
●仝　市龍見町八十五番地　通常會員　奥村きく子
●仝　市柳川町乙百二十番地　通常會員　深井さゑ子
●仝　市宮元町二十六番地　通常會員　茂木ぶん子
●仝　市赤阪町四十四番地　通常會員　田中とも子
●仝　市柳川町二十五番地　通常會員　須藤まさ子
●仝　市北通町百四十三番地　通常會員　深井ちよ子
●仝　市鞘町五十七番地　通常會員　森山てる子
●仝　市北通町七十一番地　通常會員　中原はるじ子
●仝　市赤阪町三十二番地　通常會員　小林のぶ子
●仝　市龍見町八十七番地　通常會員　深井せい子
●仝　市龍見町一番地　通常會員　原田つね子
●仝　市下横町一番地　通常會員　柳下まつ子
●仝　市宮元町四十六番地　通常會員　米倉きぬ子
●仝　市龍見二十五番地　通常會員　横尾ひさ子
●仝　市椿町二十八番地　通常會員　田幡なほ子
●仝　市宮元町甲六番地　通常會員　金井いゑ子
●仝　市宮元町甲六番地　通常會員　小野はな子
●仝　市柳川町六十二番地　通常會員　新里はる子
●前橋市大渡九十番地　通常會員　蜷川みわ子

○高崎　横井昇子紹介

●高崎市檜物町二十二番地　通常會員　長谷川りて子
●仝市連雀町二丁目七十一番地　通常會員　久保村てる子
●仝市宮元町甲十六番地　通常會員　根門てい子

●仝市宮元町十一番地　通常會員　早乙女錠子

○高崎　莊司駒子紹介

●高崎市柳川町百四十六番地　通常會員　伊藤揖子

○高崎　馬渡なか子紹介

●高崎市柳川町百七十一番地　通常會員　野本登久恵子

○高崎　林滿智子紹介

●高崎市本町一丁目百二十四番地通常會員　相川すが子

○八王子　特別贊成員和田發賀君紹介

●府下南多摩郡八王子町八幡二十六番地　通常會員　城所多加子

●仝八王子町八幡二十五番地　通常會員　城所さと子

●仝八王子町八百四十五番地　通常會員　石田ため子

●仝八王子町本町二十三番地　通常會員　杢代こま子

●仝八王子町横山七十八番地　通常會員　大久保あさ子

●仝八王子町横山六十一番地　通常會員　内山やす子

●仝八王子町本町三十四番地　通常會員　伊藤わか子

●仝八王子町八百四十五番地　通常會員　田野倉りう子

●仝八王子町馬乘八十番地　贊成員　下田定六君

●仝八王子町横山三丁目　通常會員　谷合とみ子

●仝八王子町横山一丁目　通常會員　海老野梅子

●仝八王子町馬乘八十七番地　通常會員　小谷野ちか子

●仝八王子町八日六十六番地　通常會員　大野みち子

●仝八王子町八日三十九番地　通常會員　木村せき子

●仝八王町本町十九番地　通常會員　細野たま子

●仝八王子本町三丁目三十三番地通常會員　相馬きち子

●仝八王子町本町四十番地　通常會員　守谷とよ子

●仝八王子町馬乘十一番地　通常會員　海老野みつ子

●仝八王子町八百九十番地　通常會員　鈴木もと子

●仝八王子町横山五十二番地　通常會員　柴田京子

●仝八王子町馬乘十三番地　通常會員　鈴木駒子

●仝八王子町八日十六番地　通常會員　齋藤ゑい子

●仝八王子町小門二番地　通常會員　關山亮子

●仝八王子町八百四十九番地　通常會員　新野まず子

●仝八王子町横山三丁目六十九番地　通常會員　小島きく子

●仝八王子町横山六十番地　通常會員　守谷けい子

○事務所へ申込

●日本橋區小傳馬町三丁目五番地　特別會員（名義變更）　大竹伊勢子

●香川縣仲多度郡善通寺町大字下吉田　通常會員　吉松鶴衛子

●日本橋區濱町二丁目十一番地　贊成員　田中瀧三郎君

●神戸市楠町縣立神戸病院内　通常會員　田邊芳子

●第一醫院　通常會員　小林さの子

●第一醫院　通常會員　森はつ子
●仝所　通常會員　澁谷あい子
●日本橋區久松町廿九杉浦看護婦會　通常會員　横田とめ子
●大阪市東區糸屋町一丁目二四　通常會員　新山きく子
●新潟縣加茂郡　贊成員　關善三郎君
●高崎市龍見町　贊成員　根本靜君

○麹町　子爵夫人松井正子紹介

●相州鎌倉長谷　特別會員　三橋みの子
●本郷區向ヶ岡彌生町三番地　特別會員子爵夫人　戸田とき子

○長野　那須久江子紹介

長野縣東筑摩郡松本町字下横町　通常會員　飯沼とみ子

○麻布　山口眞清子紹介

●長崎市夫婦川二ノ六山口直路氏方　通常會員　千布都代子

○役員　宮本樂子紹介

●芝區西ノ久保城山町一番地　特別會員　根村まき子

○濱尾副會長紹介

●麹町區五番町九番地　特別會員　嘉納須磨子
●麹町區五番町九番地嘉納氏方　特別會員　堤藤子

○京橋　白神茂子紹介

●芝區源助町十二番地　通常會員　近藤やま子

○下谷　横堀乙二子紹介

●下谷區練塀小學校內　通常會員　富岡かをる子

○女學館　藤井靜子紹介

●日本橋區中洲第五號一　終身會員　日比谷もと子

○本會幹事　高木から子紹介

●北海道天鹽國增毛町大字阿分村病院　通常會員　森岡子
●丹後國東舞鶴白糸橋村田氏方　通常會員　芳賀喜多子

○臺灣　田村ませ子紹介

●臺灣臺北專賣局官舍十五號　通常會員　市川うめ子
●臺灣臺北北門街郵便電信局寄宿舍四號內　通常會員　山本ふじ子
●仝東門街民政部官舍乙三號ノ四　通常會員　山口かな子
●仝東門街民政部官舍內四號ノ四　通常會員　小笠原もと子

○羽後　鈴木芳子紹介

●羽後國飽海郡酒田町上臺町　通常會員　神尾とめ子

○特別贊成員　竹中成憲君紹介

●青森市公立病院內　通常會員　大西喜代子

○神田　柳川こま子紹介

●神田區猿樂町十二、水原病院內　通常會員　西村藤子
●仝所　通常會員　若海錫子
●仝所　通常會員　池上利惠子

●神田區駿河臺袋町十五番地　通常會員　林　久尾子

○小石川　渡邊なつ子紹介

●小石川區若荷谷町五十三、龍野氏方　通常會員　渡邊れん子

○本郷　双木せう子紹介

●第一醫院　通常會員　大津なを子

●仝　所　通常會員　今川りう子

○淺草　百瀬きよ子紹介

●淺草區小島町三十九番地　通常會員　浮貝はる子

○千葉　宮澤幾子紹介

●千葉縣千葉郡睦村桑橋　通常會員　立石まさ子

○宇都宮支會入會者

○吉永こと子紹介

●宇都宮市大町　通常會員　増淵ふみ子

●栃木縣芳賀郡小貝村字大岩寺　通常會員　大和てる子

●宇都宮市寺町　通常會員　古口とみ子

○中島とみ子紹介

●宇都宮市宿郷町　通常會員　鹿野ゆき子

○中里講師紹介

●宇都宮市小幡町　通常會員　山田てい子

●仝旭町　通常會員　太田見なを子

○茨城支會入會者

●大阪市北區老松町長池筋　通常會員　桑原なを子

●水戸市上市両町五十九番地　通常會員　林　ふゆ子

○本會役員　宮本樂子紹介

●府下豐多摩郡中澁谷七十五番地　特別會員　宮岡ふみ子

○高崎　星野きよ子紹介

●高崎市歌川町三百八十六　通常會員　横山こう子

●仝市赤坂町官舍　通常會員　水澤たか子

●仝市赤坂町百四十六番地　通常會員　古田友子

●仝赤坂町百五十八番地　通常會員　金子はな子

●仝市新町五十六番地　通常會員　栗本るい子

●仝市本町三丁目九十五番地　通常會員　山口かの子

○日本橋　林都留子紹介

●日本橋區吳服町二十二番地　通常會員　中野咲子

○事務所へ申込

●宮崎縣宮崎大字上別府二九六、中村作次郎氏方　通常會員　平田美知子

（以下次號）

●寄附金

一金拾圓也　深川區東平野町　特別會員　神谷たけ子

一金壹圓也　在臺灣　贊成員　松尾宗幽君

●會員種類變更

●日本橋　滿特別會員　終身會員　日比谷もと子

●新潟支會　滿通常會員　特別會員　淺田とみ子

●會員改姓名

●大竹茂吉君改　大竹伊勢子

●水野君改　飯塚けい子

●村松欽三君改　村松信子

●正誤

●高崎會員　堀越まつ子は　堀越まさ子林滿智子は林鶴智子の誤り

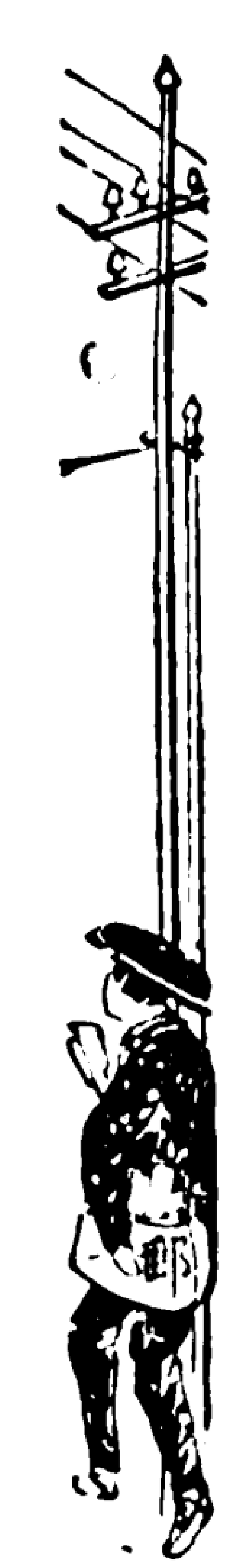
●前號雜誌中　山崎しん子、森永とく子紹介者を麻野駿子とせしは麻布、門野駿子の誤り

弔詞

本會通常會員水谷靜子（高崎）には豫て病氣の處本月三日長逝せられ又通常會員高井貞子（大阪）にも又去月病死せられたり

本會は謹みて哀悼の意を表す

轉居



▲會員諸氏御轉居の際は乍御手數事務所へ必ず御一報相願候

●臺灣臺北府後街民政部官舍を號八室へ　小出欣子

●臺灣臺北後街六丁目わ號へ　田口みつ子

●麻布區箪町百二十四番地へ　大石花子

●麻布區日本赤十字社病院へ　桂ゆき子

●赤間關市關後地村園田八番へ　守谷やす子

●甲府市山田町見附山中醫氏方へ　岩間しげよ子

●芝區高輪南町四十三番地へ　谷崎直子

●新潟縣見附町見附病院内へ　二宮とく子

●京橋區松尾町一ノ五へ　天田都留子

●駿州沼津在上香貫中原十六へ　飯田とよ子

●本郷區四竹町九、八雲館内へ　關哲重郎君

●京橋區南八丁堀一ノ十五へ　白神茂子

●赤坂區新町五丁目十二へ　竹内有樂子

●神戸市楠町四丁目二百二十一へ　島こう子

●本郷區駒込追分町百番地へ　小林さだ子

●長野市千歳町三十三へ　土屋かの子

●本郷區弓町一丁目廿六横井氏方へ　中島峯子

●信州東筑摩郡松本町土井尻八六九ノ内三へ　武居すほ子

●本郷區湯島新花町九十三へ　堀部夏子

●豐多摩郡落合村大字下落合　侯爵夫人　近衞もと子

●岐阜縣海津郡東江村大字大和田へ　安田定子
●芝區西久保巴町七十九へ　玉木と代子
●甲府市柳町二、志村八右エ門氏方へ　加藤安子
●河内國高田林町十九番屋敷へ　米原とき子
●小笠原島母島沖村第二號官舍へ　金丸すみ子
●臺北府直街二丁目へ　植田たね子
●臺北東門街民政部乙第三號ノ七宅へ　田村ませ子
●仝上　田村氏方へ　萩野まさえ子
●臺中郵便電信局へ　小松はつ子
●臺南郵便電信局へ　岩崎くに子
●芝區愛宕下町一丁目二番地へ　岡田敏子
●神田區皆川町十三番地へ　松田せき子
●京橋區靈岸島大川端町一へ　大澤かめ子
●下谷區車坂町六十二へ　荒木てつ子
●下谷區下根岸四十へ　櫻井和香子
●麹町區三番町十一へ　松本正木子
●牛込區榎町七へ　集堂みつ子
●小石川區水道町四十七番地へ　大河内完子
●小石川區關口臺町へ　高田藤子
●甲府市甲府病院へ　内藤岩千瀬子
●岐阜縣土岐郡餘戸村笹戸安藤氏方　澤よね子
●信州南安曇郡有明村へ　三澤さわじ子
●臺中縣官舍八號三室へ　飯塚けい子
●日本橋區本材木町一ノ十九へ　植田ふさ子
●長崎市東中町官舍へ　小橋秀子
●淺草區猿屋町十二、帶石氏方へ　川口そう子
●北豐島郡日暮里村大字金杉百九十二へ　後藤新子
●長野縣松本飯田町藤森病院内へ　三澤さわじ子

●住所不明（御承知の御方は御一報相願候）

元本郷森川町　西田利恵子
本郷元町二ノ廿九　古川節子
本郷第一醫院　碓水のぶ子
麹町二ノ六　松本えい子
仝飯田町一ノ八　細野千代子
甲府　石丸小菊子
麹町飯田町六　伊藤喜美榮子
牛込山伏町　依田いよ子
仝　林靜子
京橋木挽町　矢内つた子
神田區表神保町八　堀口ひな子
元本郷元二ノ六十八　小野村あさ子
本郷第一醫院　橋本秀子
仝　小林かつ子
麹町平田町五ノ四　大澤かめ子
芝佐久間町　渡邊松子
岐阜（會費スム）　淺野きぬ子
徳島　永田とよ子
山梨　河野久和榮子
京橋彌左衛門町　丸山てい子
神田淡路町　大橋小榮子
神田濱田病院　横川きよ子

●差出人ノナキ書状往々有之候ニ付御注意ヲ乞フ

新刊批評

改良服圖説

警察醫長醫學士　山根正次講演速記

菊版寫眞版及衣服雛形圖入定價貳拾貳錢郵税四錢

發兌所　東京市京橋區鍋屋町十五番地　庚寅新誌社

婦人衣服の改良は今日の急務なり近來婦人服の改

良盛んに起り種々の考案百出せりといへども未だ世間に喧傳せらるゝもの甚だ少し氏は夙に學理と實用に重きを置き女子の服裝改良に心膽を練られ常に家人に着用せしめて屢々改良を加へられしが今や都下之に倣ひ女學生の着用するもの頗る多く筒袖の女裝を見れば山根改良服と唱道するに至る本書は氏の改良服に關する意見の速記にして極めて理解し易く初葉には同氏一家族の改良服着用の寫眞版を挿入し次に衣服の仕立方に關する詳細なる挿圖數葉を添へたり故に本書を繙けば親しく氏に面晤して其說を聞くに均しき良書といふべし

醫學博士 大澤謙二校閲
醫學博士 北里柴三郎校閲　關以雄編述

學校衛生講話材料　全　正價二十五錢

發賣所 東京神田今川橋通北　誠之堂書店

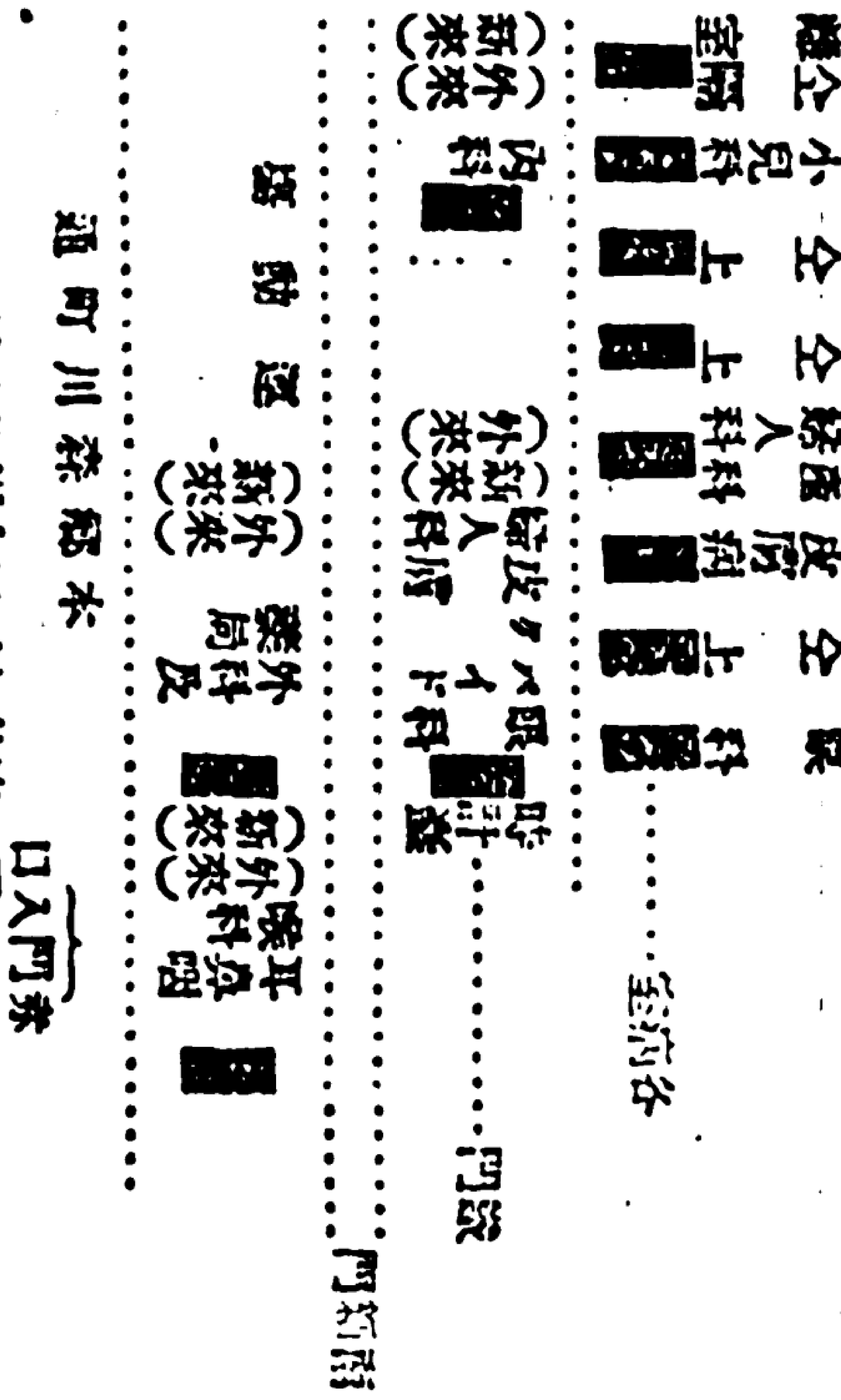
學校衛生に關する著書は先きに坪井博士三島牧山兩學士の著書ありと雖も普通講話材料を蒐集して學校教師に便したるものあるを聞かず本書は大日本私立衛生會編輯主任關以雄君の著書にして北里博士の校閲に係りたるものなれば學校教師諸君の座右欠くべからざる良書なり

◉交換寄送雜誌（自二月至三月）

●日本赤十字	第百七號	日本赤十字發行所
●日本橋區衛生協會雜誌	第六十一號	日本橋區衛生協會
●防長醫事	第七號	防長醫事社
●豐國新聞	二年二十一號	豐國新聞社
●統計學雜誌	第百九十號	統計學社
●統計集誌	第二百五十一號	統計協會
●東京教育雜誌	第百四十七號	東京教育雜誌發行所
●をんな	第二卷二號	大日本女學會
●學校衛生講話材料	全	誠之堂書店
●體育	第九十九號	日本體育會
●大日本私立衛生雜誌	第二百二十五號	大日本私立衛生會
●大日本婦人教育會雜誌	第百四十一號　第百四十二號	大日本婦人教育會
●通俗衛生	第四十三號	大阪私立衛生會
●苦學界	第十一號	苦學社
●藥石新報	自第四百十七號　至第四百二十號	藥石新報社
●藥學雜誌	第二百四十號	日本藥學會
●健康の栞	第九號	健康の栞社
●健康	第六號	健康雜誌社
●婦人新報	第五十八號	婦人新報社
●婦女新聞	自第九十一號　至第九十六號	婦女新聞社
●婦人と子ども	第二卷第三號	フレーベル會
●國家醫學會雜誌	第百七十八號	國家醫學會
●工業雜誌	第十六卷第三百三十七號　第三百三十八號	工業雜誌社
●產科婦人科學雜誌	第四卷第二冊	產科婦人科學會
●產婆學雜誌	第二十六號　第二十七號	日本產婆學協會
●山陽新報	第六八七六號	山陽新報社
●草樂新聞	自第二百三十七號　至第二百三十九號	草樂新聞社
●教育實驗界	第九卷第三號第四號	東京育成會
●刷行會雜誌		東京刷行會
●實業新聞	第千四百八十號	和歌山實業新聞社
●越佐教育雜誌	第百十號	越佐教育會雜誌社
●廣島衛生醫事月報	第三十八號	廣島衛生醫事月報社
●光の庭	第二卷第二號	以文會光の庭

東京帝國大學醫科大學附屬醫院案內

東京醫科大學附屬醫院は本郷元富士町にあり各科の便を圖り左に構内の略圖及診察時間を掲ぐ(診察料なし藥價實費)詳細は本醫誌丁三十四號に掲出せり



第一醫院外來患者診察日割

內科(新來)初めて診察を受けに行くもの
三浦教授 水金 午前九時ヨリ
入澤助教授 火土 仝
橋本助教授 月木 五

再來(二度目以上診察を受けに往くもの) 火木土仝
助手

外科(新來)
ドクトルスクリバ 水、金 午前十時より三十人
近藤教授 火木土 午前九時より二十五人

再來
助手 月水金 午前九時より

眼科(新來)
河本教授 月火水木金土 午前八時より

再來
河本教授 月火木金土 仝上
助手

産科婦人科(新來)
木下教授 火木土 午前九時より

再來
木下教授 火木土 仝上
助手

小兒科(新來)
弘田教授 月水金 午前十時より

再來
弘田教授 火木金 午前九時より
助手

皮膚病科(新來)
土肥教授 月水金 午前九時より

再來
土肥教授 月水金 仝上
助手

但大祭祝日及急病患者は此限にあらず

耳鼻咽喉科(新來)
岡田教授 月水金 午前九時から

再來
岡田教授 火木土 仝上
助手

脚氣病科
新來再來とも 火木金 仝上

病家來診時間(午後一時より仝五時迄)
外科及事務所用 電話(本局四百四十六番)
産科婦人科小兒科 電話(本局四百四十四番)

第二醫院診察日割

第二醫院燒失後は第一醫院外科の一部に於て診療する左の如し

內科(新來)
青山教授 火水
入澤助教授 月
橋本助教授 水土
助手 仝

新來
佐藤教授 火水土
助手 月水金

眼科(新來)
甲野助教授 火木土

入院料
一等 一日金參圓
二等 一日金貳圓
三等 一日金壹圓

但特別に附添看護婦を傭使するものは別に其傭使料を納めしむ

尚私費患者入院心得は本誌第百三十九號官費入院患者心得は本誌第百四十號を一覽せらるべし

生徒募集廣告

來四月本館第三學年以下の生徒を募集す入學希望の方は同月十日迄に必ず申込あるべし

入學希望者非常に多く到底全員の入學を許すこと能はざるは例年の經驗によりて明かなり故に本年入學希望の方は成るべく女子敎育奬勵會員の紹介を得て申込まるべし左すれば會員の家族と同じく無試驗にて相當級に編入すべし

規則書入用の方は二錢の郵便切手を封入して申込まるべし左すれば本館の規則は勿論女子敎育奬勵會の趣旨書、規定及び會員の姓名等詳細に記載せる一覽書を進呈すべし

本館は位置高燥にして空氣の流通甚だ宜しく校舍の建築壯麗堅固なるのみならず廣濶なる芝生の運動場を有するが故に生徒の衛生上最も好適なりとす加之大日本婦人衛生會は屢々本館講堂に於て開かるゝが故に本館の生徒たるものは其の會塲に列し親しく有名なる博士達の講演を聽き婦人衛生上の智識を得ることの多きは他に其の比を見ざる所なり

明治三十五年三月

東京麴町區虎の門内

東京女學館

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

第一條　開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必ず衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に隊して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項をして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已。第二條　名稱　本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く。第三條　會員　本支會々員たることを望む婦人は何人にても入會することを得。第四條　入會手續　入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるへし　第五條　會員種類　會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす(い)終身會員は一時に金拾圓以上(ろ)特別會員は一ヶ月金二拾錢以上(は)通常會員は一ヶ月金拾錢を納むること　第六條　男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす　其の會費は本支會員に仝じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるへし　第七條　本支會員は本部にて每月發刊する雜誌を無料にて受くることを得。第八條　退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すへし。死亡等は親戚知人より通知せらるへし　第九條　本支會に左の役員を置く、(い)支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、(ろ)書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す　第十條　役員は任期滿一ヶ年とし每年五月總會に於て投票を以て之を定む。第十一條　本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計、書記、庶務、各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるへし)第十二條　集會　集會は例會、總會、評議員會及臨時會とす。(い)集會。八月を除く外每月一回第三の日曜日に之を開く。(ろ)總會。五月適宜の日を以て之を開く。(は)急要の件あるときは臨時會若しくは評議員會を開きて評議する事あるへし。第十三條　每會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講話演說又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ。但し會員は知人家族等誘引して參會することを得へ此際出席の衣服は總て質素たるへし　第十四條　講演說等は男子の傍聽を許さず但し贊成員若しくは會員の緣故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により臨時謝絕することあるへし。第十五條　每會開會の實況等を本部へ送致するものとす。

第十六條　會計　本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四銀行に預け置くものとす。第十七條　本支會々費の收入金は之を折半して本部へ便宜之を回送するものとす第十八條　總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす。第十九條　會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるへし　第二十條　茲に記述したる數條の他その必要と認むへき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす　第二十一條　本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の贊成により總會の意見を經るに非ざれば之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

事務所、水戸市上市田見小路二十五番地　茨城支會

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條 當支會の會費は左の六種とす

終身會員 一時限り出金弐拾圓
特別會員 毎月 金參拾錢
通常會員 仝 金弐拾錢
支會員 甲毎月 金拾錢
　　　 乙仝 金五錢

第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし

第八條 毎年　月總會を開き支會の要務を執行す

第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし

第十一條 一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

新潟支會

事務所新潟市旭町一番町十番戸
河上フサ子方

私立大日本婦人衛生會山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を設く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月) 總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通一百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第弐條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第壹日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスル件ハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會々費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

婦人衛生雜誌第百四十八號毎月一回十五日發行
明治卅五年三月二十五日印刷　同年三月二十五日發行
明治二十六年四月四日(第三種郵便物認可)明治三十一年二月廿八日(内務省許可)

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條 大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條 會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條 本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●通常會員章
第一號 メッキ製拾五錢、送費六錢
第二號 正銀製五拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第三號 壹圓、送費九錢

御入會注意

御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らす御前納のこと

東京府下に限り毎月會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也

追て支會々員は支會へ會費納めらるべきことゝす

一 會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込郵便局)宛振出あるべし又價格表記通運便、何にても差支なし

一 會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし

一 轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料		
一行	十錢	總て前金
一頁	參圓	

本誌定價一部廿錢 毎月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所 私立大日本婦人衛生會
東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者 田中德三郎
東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷者 戸上義章
東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工場